柳営日次記 寛文九年

朔日

十月

巳刻黒書院 出御如例御一門方 御對顔其外如例月御礼

御刀 神尾播磨守

渡之 先月廿八日被 仰渡御條目不被相渡面々留守居三今日被相

御院御所へ御鷹之鶴御進献(日次記は本院御所)

御暇時ふく一ッッ 御暇時ふく二

人長床坊 使僧 豊蔵坊

當山二宿

朔日二出る 御城内入中御門番所大河内庄兵衛組中改之御目付衆軍傳 松平大膳大夫内室昨日病死是松平越前守妹也 松平加賀守家来足軽之者三人昨日芝神明治参候由 守這被相渡之由也 右三人共"嶋田出雲守"相渡其後御徒目付両人相渡加賀

二日

三 欠也 — 今夜玄猪御祝"付酉后刻白書院 御三方載之備 御前同餅薄盤右之方"置に出座頂戴次 出御上段着座御祝之御餅

第

松平讃岐守

井伊掃部頭

酒井雅楽頭

大澤兵部大輔

松平播磨守 松平刑部大輔

松平右京大夫

差合 松平大和守 松平出羽守

品川式部大輔 本多内記

戸田土佐守

阿部豊後守

其外中大名衆 戸田采女正 有馬中務大輔 毛利甲斐守 藤堂和泉守 稲葉美濃守 松平遠江守 内藤帯刀 小笠原遠江守 上杦伊勢守 織田主計頭 畠山下總守 無官之高家 土屋但馬守 中奥 御使役 伊奈半十郎 御勘定頭 法印法眼 御小納戸 御小姓衆 御近習衆 三千石以上寄合 御作事奉行 御目付衆 大御番頭惣領

仙石因幡守 御留守衆 松平左近大夫 水野石見守

詰衆 同惣領

町 大 奉行 目 付

宮崎若狭守

奈良奉行 禁 中 方

永井伊賀守

土井能登守

御側衆三人 大御番頭

御書院番頭

御籏奉行 御小姓組番頭

御留守居衆

百人組頭 御鎗奉行

御持弓御持筒頭

御普請奉行

御小姓組与頭 御書院組頭

惣御弓御鉄炮頭

井上左大夫 田村四郎兵衛

西丸御留守居

御舩手頭

小十人頭 御徒頭

二丸御留守居

御納戸番頭

長崎奉行 御腰物奉行

佐渡奉行 芝水奉行

右之面々壱人ッツ出座拝領之此以下両人ッツ出

御裏御門番頭

新御番組頭

御廣敷番頭

御膳奉行

出合両御番頭嫡子

丹阿弥弥	圓阿弥	珎阿弥	無官醫師	小十人	御代官	御勘定方	御臺所頭	御賄方	殺生方	御細工頭	惣御納戸衆	寄合子供	材木奉行	川舟奉行	石 奉 行	御幕奉行	御具足奉行	御玉薬奉行	御弓矢鑓奉行	御納戸与頭	御腰奉行	御金奉行	御普請奉行	大 御番 与頭共八人 三出 大 御番 一組之内より	新御番	御書院番	1 御小姓組	右之面々両人ッツ出是より、三人ッツ出	御書物奉行	道奉行	御馬預方	御鷹師頭	御 右 筆
時服+ 稲葉能登守 と下刻黒書院 出御参勤御礼	右於御內所 御對顏是亜相御礼 付 也	松平左京大夫	水戸殿	尾張殿	御對顔	春及り 参勤御礼 紀伊大納言殿 りり 見居後 初画 紀伊大納言殿			之儀為不念之間向後入念可申旨彦四郎へ申渡	由也右之族百人組御番所當番安藤彦四郎不改出之相通	所當番大河內善兵衛相改之捕之遂穿鑿之処道踏惑来之	去朔日松平加賀守足軽三人。御城中へ来付。中御門御番	之由也	右*昨日紀伊大納言殿當着 付為上使被遣明日 御對顔	土屋但馬守	五日		一紀伊大納言殿依参府為 上使但馬守	1	於評定所式日寄合稲葉美濃守出座也	四日		今晚玄猪御祝儀 御刀 松平紀伊守	嶋原ゟ飛脚先月十八日城地松平主殿頭へ引渡之由申来	桑山丹後守注進	勢州 ゟ 飛脚 去 月 廿 八 日 山 田 御 遷 宮 相 済 之 由 吉 良 上 野 介	三日		右*戸田土佐守煩 "付御使被遣		右罷出御餅頂戴戌下刻事過 入御	千阿弥	金阿弥
戸田備後守組へ入 遠山小左衛門大御番 地が足衛門子	八日 化条台匠状夹组		新院御所 女院御所 御鷹之鶴御進献之宿次	男三枝隐岐守組御番樂 男三枝隐岐守組御番樂 男三枝隐岐守組御番樂	1	御近習之面々	松平因幡守	板倉筑後守	土井能登守	午后刻西丸 渡御御供	七日		及御暇	就本復四郎五郎事今般徳永平八郎一所相越依之今日不	五郎依被 仰付之其節 御目見黄金等被下之処吉左衛門	大坂御目付渡邊吉左衛門儀於彼表當夏相煩為代阿倍四郎	福岡太郎八	松下佐五丞	松平九郎左衛門	加納平次左衛門	銀馬代ッッ原田市十郎	" (銀馬代 三浦長門守	御暇時ふく五羽折 水野監物	申付旨今日彦四郎へ美濃守被申傳之	右於百人組御番所安藤彦四郎不改為無念之間向後入念可	當番大河内善兵衛相改捕之遂穿鑿候處"道路迷候由也	一 去,朔日松平加賀守足軽三人 御城中"来付"中御門番所		銀馬代初見。徳永平兵衛	一 同所御目付"被遣候阿部四郎五郎、先日御暇今日不罷出	金五枚 御暇 徳永平八郎	右御目見過無御勝手より	時服三 稲葉市正 銀馬代 同人二男

在番婦 摂津守組中	山吹之間	先日済 御目付御暇 阿部四郎五郎 拝領物 大坂	箱肴 "大久保新八郎	書棚一組 在番帰 三枝摂津守	御勝手より	両鞍覆三 同 牧野平右衛門	切付三口 同 三浦越中守	熊泥障三縣 加番婦 板倉伊豫守銀馬代 駿府			羽折 御暇 脇坂中務少時服十 在所へ 脇坂中務少	出御	於評定所式日寄合有之	十二日		久世大和守病氣之樣躰可被為 聞召為 上使内藤式部少輔被遣之	左馬頭殿右馬頭殿昨日鶴被遣候為御礼登 城	十一日		大夫登 城	紀伊亜相甲府舘林両宰相へ御鷹之鶴被遣為御礼松平左京	吉良上野介勢州ゟ帰謁	申下刻二丸 涯御酉下刻 還御	十日		御構無之	一 松平加賀守家来先日 御城 来候足軽三人斬罪被 仰付妻子	右*氣色為養生一昨日知行所; 御暇被下之	北条安房守	九日無事		無異心難迷来被行死罪	松平加賀守足軽三人去朔日 御城中へ来捕之遂穿鑿之処	用中大隅守組へ入 清水平八郎 意大夫子
リ角倉市丞	進物 初	』 権僧正御礼 元州 院 元十五年 親 心 院	参府	根矢百筋 参勤 内藤飛驒守銀馬代	右四人去,二日御礼之時分御進物杯出儀,無用可仕旨也	西尾七兵衛	富田大學	飯河傳右衛門	中山藤兵衛	右御目見也	箱肴 湯治 酒井河内守	御座之間	月諸大名御礼有之	已下刻黑書院 出御御一門方 御對顏過 一白書院 "而如例	十五日		高田様本理院様千代姫様』 御鷹之鶴如例年奥方より被進之	御暇時ふく四羽折 久野丹波守	十四日		尾中将水宰相昨日 上使被遣物之为御礼登 城	右両人佐州水損之領為見分近日可被遣宗被仰付御暇	同断同學學院亦左衛門	銀廿枚 國目付 などではあり組入では、銀廿枚 國目付 なる気を行う支配	十三日		尾黄門水宰相へ御鷹之鶴被遣 上使松平民部少輔	箱肴 紀伊亜相	(一荷二種 同 御簾中	網臺樣 綿百把 紀伊黃門	一荷二種	大納言殿〈婚礼相済』付 () 1 1 1 1 1 1 1 1 1	(綿百把	箱肴 病後 松平隐岐守
宮崎仁左衛門	旨高木伊勢守土岐十左衛門嶋田出雲守列座被 仰渡之	候"付仁左衛門藤右衛門今日評定所"被召寄遠嶋被仰付候	左衛門藤右衛門三左衛門御勘定相済三年御勘定埒明不申	申旨先年被仰付候処御算用之内三左衛門死去依之子息仁	一 遠州信州御代官宮崎三左衛門引負在之 付御勘定仕立可	青山大膳亮老母死去也	十九日		一 大和守薬十月十七日より井関玄悦可被替由	引渡帰 駒井次郎左衛門	駿府在番中善悪御改有之老中出座	三枝摂津守組中	十八日		右相對次第屋敷替可仕旨老中傳之	鈴木九左衛門	土屋傳右衛門	加藤源四郎	梁田隠岐守	右之通下屋敷被下之	同町屋敷之方 "芾三千坪 松平因幡守	牧野佐渡舞下屋敷牌4三千坪 松平民部少本庄	堀田豊前守上ヶ屋ノ内千五百坪 板倉筑後守浅草	於御座之間 御目見日光之儀御尋也	梶左兵衛督	紅葉山御宮為御名代土屋但馬守参拝也	十七日		十六日 無事		紀黃門へ御鷹之鶴被遣国元へ宿次	日門へ九月為御祈祷料銀百枚被遣之 上使織田主計頭	一上林味卜	# 継目 / 角倉与一郎

F	i	同人次男
庭 才 債 門		

金拾 Y # # # 2 - 4 分知 例	中三日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	於評定所式日寄合稲葉美濃守廿二日	右者松平清兵衛-御預 清兵廿一日	日門 日光帰御登 城上野御佛殿為 御名代經廿日	遠流被 仰付末子両人儀未致 御鷹之鶴一ッッ # 御使器 上使町野壱 尾中 ・	果子共之儀候之段不届被	事無據儀有之"御勘定於 _居 事無據儀有之"御勘定於居事無據儀有之。 定帳雖差上之跡二三年之	頭中度々雖催促達候之内頭中度々雖催促達候之內	右 未 御目見不仕候 "	右"隱岐國"流罪被 仰4
藤堂庄次郎	藤 堂和泉守	天濃守出座也	清兵衛孫之由也 宮崎辨之助	御對顧 稲葉美濃守参拝也	松平越後守 《野老岐守 尾中将 《野老岐守	衛門藤右衛門両人、隠衛門於存命、切腹雖可	之"御勘定於遅滞、可被遊御用捨候へ共聊申分無之跡二三年之御勘定不相済引負大分有之三左衛門之跡二三年之御勘定不相済引負大分有之三左衛門	雖催促達候之內"去年三左衞門病死就夫惣領仁左官宮崎三左衞門儀御代官所勘定滯有之付"従御勘定	付松平但馬守 ^工 御預	付候

			銀馬代ッツ			時 ふく三 ッッ 銀 馬代	時服十羽折	- 3			金馬代	御葉茶壺	備前兼光御腰物代金廿枚	御茶壷 松風	御屏風一双 雪舟筆	御臺様へ	一個茶入佐伯肩衛	御腰物貞宗代金百五十枚	時服十	/金馬代
							御暇	家督	同	引渡帰 松平主殿頭江		同							御礼	隐居
1 中川蔵人	須知所左衛門	藤堂数馬	· 藤堂孫八郎	藤堂采女	藤堂監物	藤堂仁右衛門	岡部内膳正	松平駿河守	溝口孫左衛門	駒井次郎左衛門		松平若狭守							雇 当 プ 粤 豆	養生で長貢

増上寺御佛御名代土屋但馬守参拝也 御暇時服四 御廣敷添番へ 常福寺へ 尾州 富士見番星野久左衛門 挑燈奉行 御徒目付 上村九左衛門 観心院 石原八左衛門 增上寺三﨟 林作

廿五日 無事

廿六日 御鷹之鶴被下 " 石川美作守保科肥後守 " 御使番 松平新太郎 井伊掃部頭 松平大隅守

之御羽折 "八丈嶋三反拝領之 御座間へ梶左兵衛佐被 召出日光へ御暇四百俵御加恩郡合千俵御召

見廻可申付之旨

廿七日

野々山肥前守京都帰登 城従 女院十燒香之箱被進之 御臺様へ、十焼香之道具載之棚被進之

巳后刻黒書院 出御御一門方 御對顔其外如例

御刀 松平紀伊守

一 荷 二 種 縮緬+巻 太刀目録 /銀馬代 紀黄門御息女一條大納言殿へ婚礼相済"付 和紙五箱 羽 時 服 六 罷越 帰 嶋原ゟ引渡相済領所 奥 御 在 城 煩 付 付 登 参勤 一條右大臣殿使者 「條右大臣殿使者 「條右大臣殿使者 同御内室使者 御内室之使者 堀川近江 佐々又兵衛 谷川儀左衛門 水野右門大夫 松平遠江守 尾張殿

御臺様へ一條殿父子 御内室ゟ

箱箱五巻 一荷二枚 縮緬五巻 知恩院御門跡へ如例年米三百俵被遣之吉良上野介ゟ相達之 二種 一荷 一荷 御暇時ふく弐 太刀目録 一荷二種 参府 細川越中守使者 宮内 鹿塩長右衛門 同 御内室か 野々山肥前守 常福寺 一條右大臣殿 同 御内室 一條大納言殿

廿九日

但京廻土手之薮角倉与一郎"御預向後御用之外不伐荒候様" " 時ふく弐ッツ 御暇時ふく三羽折 使 者 同一之丞 角倉与一郎

御鷹之鶴被下 松平讃岐守 松平相模守 松平安藝守

> 柳営日次記 寛文九年

閏十月

白書院 巳上刻黒書院 出御 ^{御刀 能勢摂津守} 御一門方 御對顔過 出御如例諸大名 御目見終『御勝手より

二 小 羽時金 十 金 折服五 疋 巾 主枚 水 めん 進 御 物 礼 長崎ゟ 御暇 江戸 大 覚 院 不動院

仰付三左衛門病死之事候間御免有之国々追放被 仰付 処手代役召仕異見無之同意之仕合不届被 思召急度雖被 御代官宮崎三左衛門手代松嶋助兵衛儀三左衛門大分引負仕候 信濃 遠江 関八州 京 大坂 堺 奈良 伏見 東海道筋 木曽路筋 駿河 甲斐

惣五郎養子 東長右衞門組 宮田治左衛門 市右衞門子

七兵衛養子

野尻平兵衛

同人組

兵左衛門養子 斯左衛門養子

三郎左衞門養子石川兵八郎

西川孫左衛門

七郎兵衛子河野助六郎

巳下刻角田川筋"為御鷹野 出御御道筋大手ゟ本町両國

橋通御供

本城御留守居

土井能登守

角田川御殿 ""御膳被召上羽芝より御船 ""辰ノ口迄被為 鴨七黒鴨壱口鴨一也 鶴二白鳥二鷺三雁十四白雁真雁六鴨廿五之内真鴨十四小 召申下刻 還御御物数御拳 "而白雁一白鳥壱脇鷹" 而黒

先月廿八日也

知恩院御門跡如例米三百俵被遣之吉良上野介傳之

御拳 白鳥弐 白雁弐 脇鷹 ニ

鶴弐 白鳥弐 雁十四 雁金弐

今日 出御之砌御鷹師共子共 殺生方之子共初 御目見

於乗物下馬

清右衛門養子

長田傅左衛門

乾 長大夫 乾 長大夫

清水權之助組 中田甚右衛門助作子

半介養子

沢 源三郎

六左衛門養子 京野藤左衛門

惣左衛門子 三左衛門養子

遠藤七左衛門

清水権之助組 尾関甚左衛門 左大夫子

川野権右衛門 服部備後守

戸田七之助組 井口八兵衛太郎八郎子

助兵衛養子

神谷作兵衛

野村三郎右衛門

齋藤彦右衛門

戸田七之助組 真野六郎左衛門

^{惣內子} 渡辺次郎右衛門

五郎八郎子

三橋弥治兵衛

加藤伊織組

問官左衛門組 阿部小左衛門半十郎子

与左衛門子

善右衛門子 久兵衛子 七右衛門養子

木村善左衛門 林 儀右衛門

二日

御機嫌伺柿一箱

問官左衛門組 間宮喜左衛門 彦六郎子

問宮左衛門組 木村作左衛門 庄右衛門養子 庄右衛門養子

志村又右衛門

加藤伊織組

吉田甚左衛門

清六郎養子

志村金之丞

清水権之助組 吉田八右衛門

与右衛門子

権兵衛子

蜂屋庄五郎

小栗長右衛門組 新見平右衛門

志村八兵衛

市左衛門子

右人数三十五人

永井伊賀守

板倉筑後守

御目付 松平因幡守

松平美作守

松平民部少

於評定所式日寄合土屋但馬守出座也

昨日之御鷹之雁被遣

雁弐 同人 " 大森信濃守 " 柴田七九郎 上使大久保出羽守 永井對馬守 松平内記 水戸宰相殿 舘林宰相殿 紀伊大納言殿 尾張中納言殿 保科肥後守 甲府宰相殿

高田御方 本理院御方 千代姫君へ雁一鴨一ッッ被遣之

	戸田采女正 《	小笠原遠江守 ヵ	松平美作守三	本多内記	井伊掃部頭	松平讃岐守	今日御譜代大名 "去"三日御狩之鶴御料理被下"付各登 城	七日		紙被相觸 "付為御礼各登 城也	明七日御譜代大名。御狩之鶴御料理被下旨老中より御手	六日		松平丹後守参府。付 上使美濃守		銀弐枚 御孝之雁提居候"付 清水権之助	右 御鷹場より御拳之白鳥投居候付被下之	金拾两 脚手鷹匠 加藤権右衛門	銀五枚ッツ 誤断助右衞門 長坂二郎兵衞 御手鷹匠四人 ポス兵衛 細田加右衞門	佐山角左衛門	共平角助	小野吉兵衛	加藤午之助	小栗長右衛門	戸田七之助	加藤伊織	羽折 清水権之助	同断 被下之 間宮左衛門	明斯 伊奈半十郎 伊奈半十郎	一 一昨日御鷹野當冬初『被為《成候』付御褒美被下面々	五日		禁襄へ御拳之白鳥御進献之
	御直に被為 召十二月御入内 "付被為御使可被遣旨可致支度	松平美作守	其外御譜代大名両三度出座 御目見重 而	松平美作守	右一同罷出御禮次に	井伊掃部頭	松平讃岐守	右振舞過。已下刻黑書院 出御	右*登 城無之	戸田伊賀守	^{集合} 本多肥前守 ±弐	ケ 本多中務大輔	" 松平隱岐守 四	次 松平出羽守	右之面々山吹之間雁之間「無御料理被下之	井伊伯耆守 +三	稻垣信濃守 +九	牧野遠江守 #-	本多隠岐守 #四	松平将監	本多山城守 +	松平佐渡守 #三	西尾隱岐守 +ゼ	小笠原土佐守 + *	土岐山城守 #<	鳥居兵部少 +四	諏訪因幡守 +=	松平筑後守 #☆	松平宫内少 +=	本多飛騨守 +二	松平駿河守 +-	奥平大膳	本多越前守 +
1	箱肴 知行所帰 由良信濃守	国元へ御騰之鶴被遣候"付 山高庄右衛門	同断 足質門皮者 一起 大利門 「大利門」 「	P	司折	銀馬代 同 世界後年 衛 銀馬氏	同断 同 非美德里 根岸長次郎	鳥目 同 大山源十郎	同断同いない。日間受蔵は、日間受蔵	同断 同 新五兵審急員 市五兵審急員	同断 同 片唇物具 日野権十郎 引 - 8 元 8 元 8 元 8 元 8 元 8 元 8 元 8 元 8 元 8	銀馬代 初見 紫一年80頁 銀馬代 初見 紫一年80頁 第二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十	(報馬代 同 記事子意順 和泉守	(異々辨世間 参勤 松平丹後守	巳下刻黒書院 出御	+		東三校隨峽守組堀田對馬守組縛番衆 一 山里 "而御馬」上覧御膳被召上未下刻」還御	一 御入内之日限来月廿一日之由美作守發足来月朔日之由	一 昨夜丑刻上野求聞堂より火事出来不残焼失	御近習之面々	松平因幡守	松平民部少	永井伊賀守	午上刻西丸涯御御供	九日		品川式部大輔事来月女御入内"付松平美作守"相添可被遣旨	右御座之間被為召之御兵法被 仰付之	同大膳	柳生飛騨守	二丸 渡御	八日

内藤帯刀 牧野飛騨守 九

旨 御直に被 仰出畢 入御也

松平亀千代三御鷹之鶴被下之 上使御使番

御前へ重確松平美作守被為召来月御入內"付御使被 仰付用意 女卿

式日 出座美濃守	此外四十三 真鶴一 雁廿 雁金五 鴨十二 水札三 鷺一 鶉一	御物数 御拳雁三	麻布筋へ為御鷹狩 御成	門≒も早々参着可仕旨以奉書被仰遣之	六日之日付 "而今日注進之上則越中守"奉書被遣之八左衛	看仕候由松前八左衛門:	一 今度松前蝦夷之儀先月廿三日廿四日両日之内夷人上下五	上物也	右之通被差上候様昨日土屋但馬守申渡之右松平美作守差	女院御所 ¹¹ 白銀廿枚	天子。御太刀馬代金三枚 女御御方。白銀弐拾枚	十二日		御暇時ふく三山高庄右衛門	從松前八左衛門 松前兵庫所へ申越 候由注進狀津軽越 中守 6 到来	先月廿三日同廿四日両日蝦夷人以上五十五人或討取或搦捕之由		禁寒へ金一枚 禁寒へ金一枚	√女卿へ銀十枚 女院へ同断 √板倉内勝正 牧野佐渡守 松平美作守	禁要へ金一枚 「阿部豊後守 稲葉美濃守 久世大和守 土屋但馬守	蜂須賀干松 上秋喜平次	女御へ銀十枚 松平大和守 本多內記 松平下総守 松平土佐守 有馬中務大輔	クラン 佐竹修理大夫 森内記 松平淡路守 丹羽左京大夫 松平出羽守 禁裏へ金弐枚		禁聚へ金弐枚 公平遮炎宁 公平黄皮宁 吴科克前宁 西井雅築頂	女御へ銀廿枚 / 細川越中守 松平右衞門佐 松平丹後守 藤堂和泉守 松平亀千代	禁裹へ金三枚 松平新太郎 松平大隅守 松平相模守 松平安藝守 松平大勝大夫	禁裹へ金壱枚 女御へ銀十枚 水戸少将	禁裹へ金弐枚 女御へ銀十枚 尾張中将	松平加賀守 松平越前守 井伊掃部頭	/ 尾張黄門 紀伊黄門 甲府殿 舘林殿 水宰相	禁裏へ金三枚 女御へ銀二十枚 女院へ同断	来月廿一日 女御入 内"付御祝儀	+一日
松平越後守	右 禁裏這御太刀金三枚 女御這銀二拾枚ッッ	松平亀千代	藤堂和泉守	松平丹後守	松平右衛門佐	細川越中守	松平大膳大夫	松平安藝守	松平相模守	松平大隅守	松平新太郎	右*禁裏 :御太刀金弐枚 女御 :銀十枚 女院 ヹも同し	水戸宰相殿	尾張中将殿	右*禁裏:御太刀金三枚 女御:銀二拾枚 女院:同し	井伊!	松平越前守	松平加賀守	水戸宰相殿	舘林宰相殿	甲府宰相殿	紀伊中納言殿	尾張中納言殿	一 来月三日御入内 "付以使者御祝儀被献之衆	水札三鷺壱都合四拾六	御拳"而真雁二白雁壱脇鷹"而真雁壱雁二十鴨十二鶉壱	麻布御薬園 篇 御膳被召上申后刻 還御御物数	御近習之面々	松平因幡守	松平民部少	土井能登守	場赤坂御門通御供	一 辰下刻浅布筋為御鷹 出御御道筋櫻田より外櫻田永田馬	於評定所式日寄合稲葉美濃守出座也
	御鷹之鶴弐 井伊掃部頭へ	昨日御狩之御拳之雁一シッ 高田御方 本理院御方 千代姫君へ被遣之	麻布御薬園 银拾枚池田道陸右昨日被為 成侯 "付被下候	十三日		右之通老中より相觸	右*禁裏這前同一女御前同一女院前同	一文、女界女完『訳十文ッッ 稲葉美濃守	阿部豊後守	土屋但馬守	松平美作守	板倉内膳正	牧野佐渡守	伊達遠江守	松平但馬守	織田山城守	宗 對馬守	右*禁裏"御太刀金弐枚 女御銀十枚 女院"同し	L	蜂須賀千松	有馬中務大夫	松平土佐守	松平下総守	本多内記	松平大和守	松平出羽守	丹羽左京大夫	松平淡路守	森 内記	佐竹修理大夫	右 禁裏 御太刀金弐枚 女御 銀十枚 女院 ヹ゚・同し	酒井雅楽頭	保科筑前守	松平讃岐守

戸田六郎左衛門		久保新右衛門	十六日 無事
加茂宮治兵衛	上勤上	北村市左衛門	
富永七兵衛	皆動	廣戸源右衛門	松平加賀守御礼之節鷹場へ御暇被 仰出
即要物象行		井出三左衛門	尾張殿御礼之節鷹場へ御暇被 仰出松平摂津守可有同道旨
平賀三五郎	上勤	原田藤四郎	新者 参上 天羽七右衛門
竹尾喜右衛門		宮崎彌五兵衛	##代言 山本大夫
土井喜兵衛		石川助之進	春木大夫
小林又右衛門		諏訪久右衛門	年寄惣代
名取三郎右衛門		下山甚右衛門	「日欠記は神主懲代)神生惣代
永井助十郎		□	## ## ## ## ## ## ## ## ## ## ## ## ##
池田勘兵衛		庄 与左衛門	同 泰安
宇佐源五右衛門		上《勤萬年傳兵衛	一東一包ッッ 選田道安
遠山三左衛門		甲斐 为年 須田喜兵衛	太刀目録 参府 松下伊賀守
上田宇右衛門		大澤権六郎	薫物 (勝仙院 使僧
山田善右衛門		朝比奈孫大夫	^{箱肴} 湯治帰 松平修理大夫
加藤甚右衛門		bb 井出七右衛門	中間之御襖障子開之御次之間伺公之面々
(A) 给 (A) 是		御番改御褒美被下面々 5000000000000000000000000000000000000	是"伽羅堂御造営被 仰付出来"付御礼右御目見御礼終"老
■ 精屋弥右衛門		小十人組、皆勤金三十両上々勤同廿両上勤十両被下之	三東老巻 泉 涌 寺
岡部権之助		右三百六拾壱人	聚付御将五下 参勤 永井日向守銀馬代
大久保平三郎		十六人 御右筆十五人 大御番 =[条大坂 九拾三人	例月御礼
曲淵市大夫		人 御腰物御薬込衆八人 御納戸十四人 御腰物奉行八人 小十人	巳下刻黒書院 出御御一門方 御對顔畢 白書院 出御如
長田与右衛門		右之通被下 御小姓組百人 御書院番七拾五人 新御番三拾三	十五日
河野九郎右衛門		上勤十年内十二御免	
小笠原傳兵衛		一 金五枚皆勤十年間 金三枚上々勤十年内煩二。御礼 金貮枚	御鷹之鴨被下 松平大膳大夫 松平丹後守
山角藤五郎		此件不残別紙"認	右之通被下之
石川源右衛門		並居一同 御目見御褒美被下旨番頭 単 御直に被仰出之	" 三枚 同 甚右衛門
都築二郎右衛門		御表工 出御雁之間芙蓉之間山吹之間菊之間御番衆面々	銀子五枚 第四庭雲
小林吉大夫		去頃被仰出候十ヶ年以後御番改之衆今日招殿中依之午刻	₹後田喜左衛門
関 五郎兵衛		十八日	同銀五枚ッツ (大石忠左衛門
水野長兵衛			甲皮ぎた 一 神谷長 五郎
蜂屋源五兵衛	上勤	屋敷替之輩有之	羽折 溝口佐左衛門
高木六兵衛		一 二丸『八》半時被為 成候由也	
木村善左衛門		紅葉山御佛殿御名代稲葉美濃守参拝也	御奥方御好之御作事出来"付御褒美被下之
内藤十郎兵衛		十七日	十四日

高井介十郎

石野七左衛門

皆勤

御小姓組 上勤 上勤上 告勤 上勤 鈴木甚五右衛門 井出二郎左衛門 半部与兵衛 大橋長左衛門 久保金左衛門 久保五兵衛 森 新兵衛 北嶋久左衛門 杉浦半左衛門 朝比奈藤右衛門 河内源五兵衛 大井三郎右衛門 疋田源右衛門 大河内市郎右衛門 小嶋二郎左衛門 神尾五左衛門 飯高七兵衛 大橋左兵衛 杦浦源右衛門

佐橋半左衛門

牧野数馬

井出太左衛門 興津五郎兵衛 久世兵右衛門

建部宇右衛門 小倉十兵衛

石川庄次郎 服部三郎左衛門 小倉彌右衛門 蜂屋源右衛門

上勤

市岡左大夫 本多杢之介 浅井権十郎

> 須田三郎兵衛 立花与兵衛 徳永三左衛門 稲葉勘右衛門 神保又左衛門 設楽三左衛門 伊奈甚之丞 三枝長兵衛

秋田平大夫

山崎十兵衛

折井市左衛門 藤堂数馬

市橋甚四郎

甲斐庄四郎右衛門

西尾甚之助 富永孫大夫

依田源二郎

西山八兵衛 徳永権十郎

新庄甚介

上勤上

内藤左七

佐々喜兵衛 宮崎七右衛門 岡部源右衛門

中山伊右衛門 設楽市左衛門 妻木傳兵衛 高山平左衛門 宮崎主水

高林与五右衛門 牛込傳左衛門

堀 八郎右衛門

山崎勘兵衛 跡部宮内 森 才兵衛 川口茂左衛門 井戸甚之丞 服部久右衛門 天野六郎左衛門 春田宇右衛門 石巻八郎左衛門 高木忠右衛門 細井金五郎

山岡八郎右衛門

上田太左衛門

松前八左衛門 初鹿野一郎兵衛

岡部三右衛門

柴田権兵衛

三宅大學

青山源右衛門 若林長十郎 椿井喜兵衛 中坊長兵衛 西尾七兵衛

山角清兵衛 村越左兵衛 安部彌十郎

神尾彌右衛門

飯田三左衛門 酒井小平次

品川権大夫 神尾三郎右衛門 酒井作右衛門

北條左近 能勢半十郎

宮城主殿 曽根五郎兵衛

中山丁之丞 水野十左衛門

久松彌一郎

都合百八人

御書院番

皆勤

中山左兵衛 神尾五郎大夫

平野九左衛門 渡邉久助

荒尾平九郎 松平新右衛門 間宮一九郎

松下与兵衛 脇坂甚兵衛 秋山十兵衛

土屋市郎兵衛 興津内記

遠山久四郎 松平助四郎

宮城監物

大岡甚十郎

細井仁兵衛 神 左兵衛

松平甚兵衛 **倉橋惣三郎** 青山半兵衛

榊原傳左衛門

五味小平次 川合源三郎 内藤権九郎 岡野平兵衛

長崎彌左衛門

井戸甚助

阿部八之丞 大岡勘右衛門

溝口孫左衛門 瀧川久三郎

大久保権右衛門 富永源右衛門

押田五郎大夫 内藤三郎兵衛

朝比奈八大夫

多門左次兵衛 石巻三左衛門

永井平兵衛 本多主膳

久松市左衛門

山下五郎左衛門 三浦甚五兵衛

伊奈五左衛門

前嶋久三郎

権左衛門

人数八十人 大御番方

挡觐

小林彦兵衛

斎藤久右衛門

佐橋三左衛門

柳原彌左衛門 戸田源兵衛

大久保源左衛門 佐々木新左衛門 渥美九郎兵衛

榊原権七郎

戸田三郎左衛門 中根喜兵衛

間宮又左衛門

加藤源右衛門 小笠原伊兵衛 蜂屋傳右衛門 川合三郎兵衛 伊藤傳五郎 大澤左兵衛 小幡五左衛門

松平 源介

上勤

堀 三左衛門 戸田三十郎 向井八郎兵衛

小笠原八右衛門

榊原左平次

最上内膳 兼松又四郎

中野傳右衛門

大久保右衛門八

曲渕与左衛門

室賀七三郎 井戸新右衛門 小澤彦大夫

戸川内蔵介

富田大學 津金理右衛門 佐久間源四郎

遠山忠三郎 渡辺与右衛門 松平甚五右衛門

桑山主水 **杦浦武兵衛**

徳永頼母 土方宇右衛門

天野孫助 土岐源右衛門

長谷川孫左衛門

能勢八左衛門

妻木傳蔵 松平六左衛門

多門藤兵衛

阿部傳八郎 ^{駿府在番} 青木又右衛門 天野彦兵衛

上々勤

佐橋忠左衛門 間宮次郎兵衛

山川三右衛門

山角文左衛門 向坂六郎五郎 水原六郎左衛門

秋山源五右衛門

馬場一郎右衛門 間宮孫兵衛 太田助之丞 竹尾傳左衛門

上勤

長田平九郎 服部久右衛門 久保田与右衛門 近藤源三郎

本多八左衛門

_{大坂在番} 渥美平右衛門 筧新左衛門 飯田治左衛門 中根又兵衛 竹本武兵衛 永田孫二郎 勝二郎右衛門 村上彦太郎

鈴木九左衛門

坂部八郎左衛門

小尾十郎右衛門

松風理左衛門 山中市兵衛 勝屋勘左衛門

朝比奈五郎大夫 久留善四郎 小笠原久左衛門 西山喜六郎 福井勘兵衛

金田惣八郎 土屋二郎左衛門 渥美太郎右衛門

米倉半左衛門

大坂 永田権左衛門 高林与三左衛門 小田切太左衛門

曽根甚左衛門 岡部八郎五郎 三枝八郎左衛門 山岡傳五郎 藤川庄次郎 山角治郎右衛門 赤井七郎兵衛 高木又兵衛

駒井孫四郎 天野孫兵衛 加藤平兵衛 小林七郎兵衛 川上六郎左衛門 佐橋惣左衛門 土屋四郎兵衛

三輪彦左衛門 本多三左衛門 鈴木甚左衛門

二条 坪内藤七郎 成瀬源五兵衛 飯高与兵衛

櫻井甚左衛門 大久保源太郎

津田三左衛門

大岡宇右衛門

川副金左衛門 千村八左衛門

榊澤四郎兵衛

佐橋傳右衛門

七郎左衛門

小尾源右衛門 天野三郎右衛門 須田太郎左衛門 久留半左衛門

三輪新五兵衛 深尾五郎右衛門 澤次郎右衛門

伊東九郎左衛門

浅井傳八郎

伊勢平左衛門 三雲新十郎 水野九右衛門

伏見勘十郎 伴新五右衛門 鈴木三左衛門 山寺五郎左衛門 岩間八郎右衛門 市川瀬兵衛

浅羽孫三郎

山角権之丞

大久保九兵衛 竹内三郎兵衛 遠山源兵衛 入野又兵衛

小林勝之介 田沼五郎兵衛 小林三郎左衛門 小栗五大夫 大井理兵衛

大坂

高林甚右衛門 都築平右衛門 幸田七左衛門

春日五右衛門

II	(勝・人 き	伊勢遷宮相済。付差越使者御暇	御暇時ふく四	御鷹之鶴被下	紀亜相病氣為御尋	十九日		右人数十六人																	小十人	人数百二十七人								
坂井采女	*		成光 寺	森内記	上使本多土佐守				清原又左衛門	11人里 山田半右衛門	司人里 深尾四郎兵衛	新生年五日新門祖 小林甚左衛門	大人呆座兵衛星生衆勘十郎	^{是明井徽祖} 多田八郎左衛門	上勤生工作工作,在一个工作,在一个工作,	朝比奈新太郎	^{宅刑尹畿祖} 夏目庄左衛門	為年產十年租 上《勤 上 日 号 上 4 年 年 年 年 年 年 年 十 年 十 年 十 年 十 年 十 年 十 年	上《動 『 『 伊藤 雅 柳新五右衛門	上動 本多十左衛門	上々動小嶋三左衛門	上動 神谷介左衛門 神谷介左衛門	司人里 石原十左衛門	皆動 2年田八兵衛 阿留忠右衛門維			菅沼友右衛門	小林平介	榊原五郎左衛門	松下忠兵衛	河内与左衛門	永田七郎右衛門	本多甚兵衛	疋田一郎左衛門
黒田万千代 松平	御鷹之雁 上使を以被下 佐竹	廿六日		金弐枚	廿五日		増上寺御佛殿為御名代稲葉美濃守参拝也	廿四日		於御座之間御鷹之鴨雅楽頭豊後守拝	甲府殿舘林殿へ 上使土井蛇	毛利甲斐守	御鷹之雁被下 松平刑部大輔	松平越前守国元へ御鷹之鶴被下宿次	廿三日		松平土佐守	御鷹之雁弐ッッ 松平左京大夫	廣幡大納言去十六日逝去 "付尾張黄	於評定所式日寄合有之但馬守田座	廿二日		尾張黄門御聟廣幡大納言殿	廿一日		拝見	囲碁象戯被 仰付 上覧有之	上野御佛殿御名代土屋但馬守参拝	廿日		п	時ふく弐	n	銀十枚
松平 隐岐守 小笠原遠江守 戸田采女正 内藤帯刀	佐竹右京大夫 松平中務大輔 松平飛驒守 松平大蔵大輔			上林味卜			美濃守参拝也			領之	上使土井能登守鷹場へ御暇被遣之御鷹三連羅提式被遣之	有馬中務大輔	松平播磨守 松平右京大夫 松平大和守 本多内記	下宿次			藤堂和泉守 蜂須賀千松	松平但馬守 宗對馬守 伊達遠江守	尾張黄門同中将へ 上使井上相模守	7 出座			門御聟廣幡大納言殿去十六日於京都逝去也				上覧有之松平讃岐守井伊掃部頭松平美作守	守参拝也			望月十左衛門	15でではなり、一大は一大山八左衛門村山八左衛門	**によると 外宮年寄	内宫年寄 大膳
於御座之間美濃守日	廿九日		箱肴	銀馬代			箱肴			羽畸服三		白書院 出御如例月	右者鷹場和暇故登			巳刻黒書院 出御御礼	廿八目		佐竹修理大夫国元へに	御目見直。御暇被下時	甲府殿鷹場ゟ使者を	本多中務少輔	本多飛騨守	雁一" 奥平大膳亮	雁弐ッッ 松平摂津守	御鷹之雁 上使を以被下	廿七目		一 太平御覧	一 五経大全	一 四書大全	一 二十一史	女院へ、御香盆二襴絹五巻被進之	服部備後守御暇罷上"付
座之間美濃守但馬守美作守御鷹之雁弐ッッ拝領之			参上 平岡七之助	從山田参上 遠山丹後守	一岡部主税	淀川御普請御用帰 / 永井右衛門	湯治帰 六郷伊賀守	渡邉吉左衛門	帰御目付 能勢惣十郎 大坂	^{御暇} 松平筑前守	*** 片桐石見守	月御礼	城無之	松平摂津守	尾張殿	礼			理大夫国元へ御鷹之鶴被下之宿次當年初而在所。付。也	御暇被下時ふく三被下	府殿鷹場ゟ使者を以拝領之御鷹捉之雁弐被献之使者瀬名傳右衛門	少輔	碑守 鳥居兵部少輔 松平駿河守 土岐山城守	胎亮 牧野飛騨守 本多越前守 松平将監	年守 松平出雲守 立花紅雲	被下			部	" 一 朱子語類 "	" 一 二程全書 "	一部 一 資治通鑑網目 一部	五巻被進之	「付 禁裏へ御書籍被進之 #伽羅二木被進之
																					門		戸田伊賀守	諏訪因幡守										

舘林殿鷹場ゟ拝領之御鷹捉之雁弐被献之使者前田孫市直"御

久世大和守へ御鷹之雁弐被下御使遠山半左衛門

寛文九年閏十月十八日

戸田相模守組 大沢権六郎

大久保彦兵衛組

駒井右京組

戸田相模守組

齋藤久右衛門

佐橋三左衛門

佐々木新左衛門

榊原弥左衛門

須田喜兵衛

酒井伊豫守組

間宮孫兵衛

本多伯耆守組 馬場十郎左衛門

渥美平左衛門 津田三左衛門

松平豊前守経

大久保源五左衛門 竹尾傳左衛門

大久保右京亮組 本多伯耆守組

太田助之進

自亥年去年申迄十ヶ年之間御番改之儀當春被 仰出之依 之右勤番之輩今日 殿中。召之御番無懈怠相勤大儀被 思召

但馬守能登守伊賀守列座 御褒美黄金被下候旨 上意之趣雅樂頭傳之豊後守美濃守

新御番 御右筆 御腰物奉行 御納戸衆

中根日向守組村上彦太郎

永田孫次郎 久留半右衛門

大久保右京亮組

浅井傳八郎

須田太郎左衛門

筧新左衛門

植村土佐守組

深尾五郎右衛門

三輪新五兵衛

小俣七郎左衛門 竹本武兵衛

新御番所南之方

御小姓組 御書院番 大御番 小十人組

白書院東之方

午后刻黒書院 出御右之諸番頭一同出座 御目見何も組中 御褒美被下候御礼也其後山吹之間江 出御

雁間芙蓉間竹間。 御小姓組 御書院番 御右筆

御右筆

森 新兵衛 鈴木九左衛門 天野三郎右衛門 飯河次左衛門 飯田惣左衛門

鈴木一郎兵衛

阿部忠右衛門組

同組

小嶋久左衛門

石原十左衛門 以上皆勤七十一人

杦浦半左衛門 勝二郎右衛門 小尾源右衛門

窪田八兵衛

内藤若狭守組

市川甚兵衛戸田備後守組

同人組

小林甚五左衛門

佐脇傳右衛門 前田十左衛門 森川清十郎 中根又兵衛

同組

太田庄兵衛

岩佐喜兵衛

水野周防守組

田中大隅守組 岡部丹波守組

千村八左衛門

御腰物奉行

富永彦兵衛 川副金左衛門 柳沢四兵衛

大岡宇右衛門

菊間同緣通芙蓉間緣通迄 大御番 新御番 御腰物奉行

御納戸 小十人組

存候旨雅楽頭言上之此時勤番折骨之由 上意有之而 入御 右之通並居一同奉拝謁其節御番勤仕之輩何も黄金拝領難有奉

十ヶ年之間 煩断一も無之、

十ヶ年之間 煩断三 "リ十二迄有之分、 煩々断一二有之分、 上勤上

黄金拝領之員数

十ヶ年之間

皆勤六拾九人 黄金五枚ッッ

上勤弐百拾六人 上勤上百人 三枚ッッ

右之外小十人組皆勤弐人金三拾両シッ上勤上四人金弐拾両ッッ

上勤十人金拾両ッッ

都合人数四百壱人

皆勤七十一人 大御番四十二人 御右筆三人 御腰奉行一人 御小姓組九人 御書院番九人 新御番四人

土屋兵部少輔組 間宮三郎九郎 渡邊久助 青山丹後守組岡部源太左衛門 大久保山城守組 松平新右衛門 武田越前守組 堀田對馬守組 御納戸一人 小十人組二人 土屋市丞 興津内記 高山平右衛門 三枝隠岐守組 植村志摩守組宮崎七郎右衛門 駒井右京組 同組妻木傳兵衛 松平内記組 荒尾平八郎 中山左兵衛 井出七郎左衛門 遠山半左衛門組 石川美作守組 同組 永井對馬守組 佐々喜三郎 平野九左衛門 設楽市左衛門 神尾五郎大夫 朝比奈孫兵衛

> 上勤上百四人 御右筆十人 御腰物奉行六人 御納戸十一人 御小姓組十九人 御書院番十二人 新御番十六人 大御番廿六人

岡部丹波守組 藤川 庄 二郎 能勢市十郎組 鈴木八郎右衛門 堀田對馬守組 山角清兵衛松平内記組 中根日向守組 青山丹後守組 小倉弥左衛門 大久保右京亮組 遠山半左衞門組 三枝隠岐守組 遠山半左衛門組 土屋兵部少輔組 松平助四郎 大久保出羽守組 坪内藤七郎 曾雌甚左衛門 久保田与右衛門 櫻井甚左衛門 佐橋忠左衛門 木村善左衛門 廣戸源右衛門 万年傳兵衛 最上大膳 戸田三十郎 井出太左衛門 西尾七兵衛 青山源右衛門 久保五兵衛 原田藤四郎 南山藤右衛門組 本多土佐守組 内藤若狭守組 松平豊前守組 御右筆 駒井右京組 駒井右京組 青山藤右衛門組 植村志摩守組 松平監物組 酒井伊豫守組 土屋兵部少輔組 山川三左衛門 高林与惣左衛門 石川助之丞 大橋長左衛門 小田切太郎左衛門 高木又兵衛 大久保源治郎 内藤十郎兵衛 遠山久四郎 脇坂甚兵衛 牧野数馬 神尾弥右衛門 中坊長兵衛 大橋左兵衛 小林市右衛門 服部十郎左衛門 三宅大學 小笠原八右衛門 水野主膳組安部弥平次 同上 井出三左衛門大岡忠四郎組 同組 同組 戸田備後守組 中根日向守組 青山藤右衛門組 能勢市十郎組 大草主膳正組 岡部丹波守組 大岡忠四郎組 大久保山城守組 松平縫殿頭組 向井八郎兵衛 服部又右衛門 赤井七郎兵衛 久保新右衛門 庄与左衛門 久世兵右衛門 山角文右衛門 高木六兵衛 宮城監物 秋山十兵衛 石川庄次郎 椿井吉兵衛 神尾小左衛門 飯高七兵衛 三枝八郎左衛門 水原六郎左衛門 永田権右衛門 佐橋半左衛門 同組 下山甚左衛門大岡忠四郎組 青山丹後守組 堀田對馬守組 戸田相模守組 駒井右京組 駒井右京組 同組 石川美作守組 松平内記組 蜂屋源左衛門 興津五郎兵衛 村越左兵衛 飯高与兵衛 近藤源三郎 宫崎源五兵衛 兼松又八郎 柳原左平太 建部与兵衛 岡部八郎五郎 山角次郎右衛門 向坂六郎五郎 成瀬源五兵衛 間宮次郎兵衛 高井助十郎 跡部久右衛門 松下与兵衛 若林長十郎 **杦浦源右衛門**

富永源太左衛門 大久保権左衛門 内藤三郎兵衛	同 組 同 組 同 組 同 組 同 組 河 田東市で来 「 未 関勘右衛門 瀧川久三郎 溝口孫左衛門	日時前子鼠 司 玉 味小才次 景崎弥左衛門 司 上 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	平達獎頁目 日 出渕与左衛門 岡野平兵衛 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	対	司 組 確付店拳守組 司 無井 に兵衛 細井 仁 兵衛	勝正組 同組 同組 同組 同小笠原伊兵衛 加藤源左衛門 遠山半兵衛	明	粗大沢左兵衛	同組 同組 同組 本多土佐守組 同組 中山市之丞 水野十左衛門 中根喜蔵 戸田三郎左衛門 中根喜蔵 にま	大久呆出羽芋組 司 組 一司 組 一司 組 一司 組 八郎右衛門 山岡八郎左衛門 上田太左衛門 久松弥一郎 編 八郎右衛門 山岡八郎左衛門 同 維 同 維	森 才兵衛 ドス泉出羽芋 司 祖 山崎勘兵衛 同 神 日 神 日 神 日 神 日 神 日 神 日 神 日 神 日 神 日 神	まで、 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	石衛門 石巻八郎左衛門 同	金右衛門 立花与兵衛 須田三郎兵衛 ニー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	初鹿野一郎兵衛	同 組 同 組 同 組 同 組 同 組 可 組 可 組 可 組 可 組 可 組	長兵衛	同 組 水野主膳組 同 組 同 組 西井小平次 飯田三左衛門 酒井小平次 飯田三左衛門 酒井作右衛門 神尾三郎左衛門	回 組 同 組 同 組 同 組 同 組	物組 同組 同組 同部三右衛門 以外的人 医神经病 医二种甲二甲基甲二甲基甲甲二甲基甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲	組 医甲腺六郎 西山八兵衛 徳山権十郎 「一」「一」「一」「一」「一」「一」「一」「一」「一」「一」「一」「一」「一」「	紀組 同 組 同 組 同 組 同 和 日市橋三四郎 甲斐庄四郎右衛門 富永孫大夫	市岡左大夫 同組 同組 原継 蒙堂主馬 原	司 县 自 基 建部字右衛門 同 祖 一	非系k 型 词 超納戸弐人 小十	上勤弐百弐拾六人 大御番五十八人 御右筆弐人 御腰物奉行一人	御小姓組八十人 御書院番五十九人 新御番十四人	以上上勤上百四人	小嶋三左衛門 青柳新五右衛門 朝比奈新太郎 牛奥甚十郎	はいます。 おいまい おりま おり おい はい	司 上 田宇右衛門 「一小林又左衛門 」 池田勘兵衛 「竹尾喜左衛門」 「一小林又左衛門」 「一」 「一」 「一」	西コート 日 - 日 - 日 - 日 - 日 - 日 - 日 - 日 - 日 - 日	三郎右衛門 即内宮次兵衛 司 五野十郎左衛門 同 二 一 一 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	即要勿能于 司 上 司 上 司 上 司 上 可联物率行同 上 同 上 即應物率行
番二条大坂在番之大御番拝領金は月番之番頭請取之	右拝領之黄金何も番頭御納戸より請取之但駿府在番之御書院	以上上勤弐百廿六人	左衛門	を開尹畿祖 日田半右衛門 浅原又左衛門	組 鳥居三郎右衛門組 司 組 大久及大夫 夏目彦左衛門 多田八郎左衛門	五兵衛組 日根野権十郎組 同組 平賀三 五郎小嶋次郎左衛門 朝比奈藤左衛門 平賀三 五郎	右筆 御腰物奉行 御納戸 田沢五兵衛 御納戸 田沢五兵衛 小林勝之助	郎左衛門 大井理兵衛	水野周防守組 田中城三郎 山角権兵衛	网络丹皮宁县 司 县 三雲新十郎 伊勢平左衛門 水野九右衛門 内是拗十郎 三雲新十郎 伊勢平左衛門 水野九右衛門 中華製学報 同報	即左衛門 山上五郎左衛門	本多三左衛門	佐守組 戸田備後守組 同組 再日佐五右衛門駒井孫四郎 原統一誌左衛門 春日佐五右衛門	即左衛門 小林七郎兵衛 加藤平兵衛	同組伸原五郎左衛門	組 同組 同組 同組 阿里斯克衛門 土屋四郎兵衛 佐橋惣左衛門	即右衛門 土屋次郎左衛門 金田惣八郎	上衛門 高林甚右衛門	6 人 郎 小笠原久左衛門 朝比奈五郎大夫	同組 同組 同組 口中市兵衛		戸田相撲寺組 同 組 大久保平三郎 蜂屋源五兵衛	大久保等兵衛組 遠山半左衛門組 青山藤 人名保等兵衛組 遠山半左衛門組 河野九郎左衛門 えしご	能勢作十郎祖 大人呆婆毛衛祖 蓝山小林 吉 大夫 都築二郎右衛門 和第二郎右衛門 同	上衛門 多門藤兵衛 豊山半三番門里 司 里の一番山東三番門里 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	大久暴山成于县 司 县 谷川権左衛門 能勢八左衛門 妻木傅蔵 下野孫助 長谷川権左衛門 能勢八左衛門 妻木傅蔵	大人県山城庁県 司 県 田村助大夫 土岐源右衛門 上岐源右衛門 コ コ コ コ コ コ コ コ コ	原と簡単 司 H コ H 土岐作右衛門 林浦武兵衛 - 土方字右衛門 - 徳永頼母 - 土岐作右衛門 - 土岐作右衛門	司 祖 工量兵部少輔祖 司 祖 司 祖 五国 祖 大量兵部少輔祖 司 祖 正山忠三郎 桑山主水 原 東 一	右衛門 戸川内蔵助 町	司 組 可 明在七郎 小沢彦大夫 井戸新右衛門 有賀長三郎 排原権七郎 小沢彦大夫 井戸新右衛門 有賀長三郎	左衛門 前場久三郎	司 里 一 三浦甚五兵衛 三浦甚五兵衛	司 4
右六人来年関八州國廻り被仰付之	松平与兵衛	倉橋長右衛門	神尾彌右衛門	松平次郎大夫	再田八郎左衛門	大久保甚右衛門	右御入内"付松平美作守"以被遣之	右者 御臺様より被遣之	法皇江 (縮緬世巻 女院江 (色系三拾斤	(三種二荷 女御江 (公	正親町大納言	^{銀二+枚ッツ} 飛鳥井大納言	長橋局へ 銀三十枚	應司政所注 銀五十枚 同大政所注 (銀五十枚	巻 紅白 鷹司関白へ	新院 (銀五十枚 女三宮 縮緬三拾卷 紅白	女院	(即以) 編輯百巻 紅白 法皇	銀三百枚綿五百把銀三百枚綿五百把	入力	三日		一 日 無事		右*御入内''付御暇於 御座之間 御目見被下之	######### 品川式部大輔	/ 夜衣二 時服十 御暇 侍従被仰付 松平美作守御業様々 金五拾枚 上方へ 侍従被仰付 松平美作守	出御諸大名	巳后刻黒書院 出御御一門方 御對顏	朔日	十一月	寛文九年	柳営日次記

右登 一荷二種ッッ差添被遣之 去朔日 禁裏 女御 法皇 右*御挑灯奉行被 仰付火之番十三人被 仰付是*役人之子 右三人。徒押被 右両人一御鳥見被仰付之 右* 御臺様より御使松平助大夫を以被遣之 右六人御徒目付被 仰付之 御夜物弐 城於御座之間 同組与頭 柳原七郎左衞門跡 仰付 御鳥見江 火之番へ 御目見御羽折壱拝領之 # 原見喜兵衛子 / 加藤仁兵衛 千種六郎右衛門 ana 東地惣左衛門組 菊地惣左衛門 朝倉仁左衛門組 川口源右衛門組 大森半七組 北條新藏組 女院"御入内"付 龍川庄大夫高田庄右衛門組より 御徒押 一粟津又八 諏訪文右衛門 宮川治左衛門 中野三郎左衛門 朝倉源五左衛門 高野十右衛門 奈佐安右衛門 安藤兵右衛門 水野小右衛門 大場源五左衛門 伊藤源右衛門 石黒平左衛門 稲生太左衛門 松平美作守 松平美作守 武野源右衛門 増田太左衛門 鈴木七郎右衛門 塩野谷平助 孫左衛門 五右衛門 御臺様より 銀五枚巻 御臺様へ 夜、入於御座之間舞被 八日 七日無事 四 目 六日無事 巳下刻於御座之間参勤御礼 於評定所式日寄合稲葉美濃守出座 右拾三人被 仰付候 ・尾張殿鷹場へ上使堀田對馬守以御鷹二居被遣之 尾張中将登 城是黄門鷹場へ昨日 上使堀田對馬守被遣御礼也 松平出羽守へ當年始て御鷹之鶴被下之 松平摂津守使者昨日黄門へ 上使之御礼也 尾黄門使者寺尾土佐昨日 上使被遣御礼也 被差上之両人 御目見為御暇時ふく三羽折ッッ被下之 左馬頭殿右馬頭殿鷹場へ昨日 上使之御禮嶋田淡路守曽我伊賀守 高田庄右衛門組之組頭病死 付瀧川庄大夫被 仰付之 松平出羽守へ 上使御使役御鷹之鶴被下之當年初"也 酒井河內守於御座之間雁弐被下之 雁弐 松平摂津守同道重畳不由御礼の定應場へ御暇且又の定ののの</ 御鷹二連聯 被遣之 御菓子御肴被遣之 "同断 右馬頭殿鷹場練馬へ 御菓子御肴被遣之 奥 御所柿鯛 御暇金一枚時ふく弐 参 上 上使 上使 堀田對馬守 上使 大久保出羽守 松平摂津守使者 片岡兵右衛門 川崎市右衛門 原田七右衛門 青山因幡守 観世大夫 本間十右衛門 水野太左衛門 柳生甚左衛門 石川美作守

> 夜打曽我 幸若彌次郎

いるか

同 次郎右衛門

右之通被 仰付之

右。父飛騨守於京都去三日中風被致候。付彼地へ御暇被下候 中川勘三郎

旨老中被仰渡之 左馬頭殿右馬頭殿鷹場ゟ拝領之鷹捉候鴨弐ッッ被献之右使者御暇

左馬頭殿使者番頭

須田平左衛門

右馬頭殿使者番頭

時ふく弐

朝比奈内記

細川越中守よ八代蜜柑十箱。御肴献之

高田御方本理院御方千代姫君へ八代蜜柑一箱ッツ被遣之

御暇銀廿枚時ふく弐 保生大夫

春藤権七

#銀十枚

九日

大儀に被 思召之由也 右評定所 被遣是 去六日ゟ九日迄毎日寄合公事訴訟承之

板倉筑後守

尾黄門鷹場ゟ使者石川助九郎雁鴨被献之

日門へ 上使由良信濃守 知恩院御門跡へ 上使上杦伊勢守八代蜜

柑被遣之

十日無事

十 一 日

松平因幡守

右姪之差合"付登 城無之是"同姓伊勢守娘死也

御薬種一箱ッッ 尾黄門 紀黄門 水宰相へ被遣之

曽我伊賀守室賀下総守大久保和泉守 御目見 於御座間舘林殿御對顔雁弐被献之昨日鷹場ゟ帰府"付"也家老

於評定所式日寄合在之但馬守出座

紀伊亜相へ 上使石川美作守八代蜜柑一箱被遣之

佐野太郎兵衛

仰付之

繼川長門守祖	大隅守組二人			
他 他 一 他 一 を 門 子 日 年 子 日 の の の の の の の の の の の の の の の の の の	大御番	藤堂大学頭	御騫之蝎	左馬頭殿家老新見備中守嶋田淡路守 御目見
松平越前守使者 四郎	十九日	更 即 更	右之通被仰付候	雇弐羽 の選挙 左典 厩
酒井孫四郎松平越前守使者		柳生大膳ェ		巳下刻黒書院 出御御一門方御對顏
公区或有于更新	御暇時ふく弐羽折	九鬼長門守娘		十五日
同 次兵衛	20 克	天方孫三郎江		
同 伊右衛門	四國客	松平縫殿頭娘		青山因幡守御鷹之雁二被下之 奥 於御座開也
同 次郎右衛門	伏見常盤	金森左京江		細達 御聽之条知行五百石被召上之追放被 仰付旨也
幸若彌次郎	塩川夜打	土井大炊頭娘		穿鑿之所重畳不届相極其上常々不作法之間門葉中不和也委
被仰付候	火一 夜に入於 御座之間舞被仰付候	岩城権之助江		雖事済尚以不承引土民面縛之非儀有之然間於評定所度々遂
公被 仰付之	右御座之間 被 召兵法被	#wff 想用 小笠原内匠頭娘		仕置悪敷彼百姓共度々頭中へ訴訟罷出付≡頭板倉市正取扱
同大膳		加藤出羽守江		小普請山田八左衛門事御追放被 仰付其科、八左衛門知行所
柳生飛騨守		脇坂中務少娘		呼寄之 上意之趣高木伊勢守申渡之
	十八日	松平修理大夫江		届付""役儀被 召上閉門被 仰付候依之忠治郎事嶋田出雲守宅へ
		松平左兵衛督娘		之者不念之旨趣其上奈良之仕置不宜之通被及 聞召重畳不
	紅葉山 御名代但馬守		一 縁組被 仰付候面々	五師役者所へ其断之状差越之条無異事済畢雖然為奉行職
	十七日	1之御朱印頂戴之	右之面々於 御前知行	相尋之所承違右之通南都へ件之趣申遣之『『《就其忠治郎』
		欠 奥平大膳大夫		遂訴訟之由內膳正へ被相達之仍其趣注進之此段忠治郎へ
伊東五郎兵衛	り見分帰	欠 土屋但馬守		何敷被存处之御穿鑿之上如前々被 仰付樣 下向有之 雘 可被
妻木彦右衛門		欠 久世大和守		奉行被 仰付事御門主下知悪敷又、五節役者私曲有之敷如
殿中可相詰之旨一昨日被 仰出	一 御近習之高家衆壱人 ""	柳生飛騨守		内膳正へ被相断之趣 先規 & 公儀御奉行其例無之処今般御
	十六日 無事	山口修理亮		今度某被 仰付可存其趣旨書状差越之就其御門跡ゟ板倉
		那須遠江守		処南都へ忠治郎所ゟ五師役者へ申遣趣、跡々俗家奉行雖無之
験府御目付帰 久保兵左衛門	駿府	堀田備中守		渡之其趣一乗院御門跡へも板倉内膳正ゟ可傳達之由申遣然
仙石因幡守	御暇被下物無之	朽木伊豫守		之付而忠治郎差添存寄子細於有之、可致差圖旨老中申
岩舩検校	東本参上	板倉隠岐守		春日式年之御造営之儀五師役者計裁判申付様如何可有
設楽孫兵衛	n ***	石川主殿頭		奈良奉行土屋忠治郎事役儀被召上閉門被 仰付
佐野平兵衛	箱肴	松平主殿頭		十四日
即代5 丹阿弥源二郎	進物	永井右近大夫		
松平清兵衛	箱肴参上	酒井河内守		右両人於御座御兵法有之
被	東本 中付御礼	松平下総守		同 大膳
	於国元御鷹之鶴拝領之御礼	松平大和守		柳生飛騨守
酒井孫四郎	箱肴	目見 入御之節	其外諸大名如例月 御	右病後初 登城於 御座之間箱肴以 御目見
	√ 時ふく三 初見	松平摂津守	同	久世大和守
松平但馬守	箱肴	松平加賀守	雁弐	十三日

左
馬
頭
頭殿右
右
馬頭
頭
殿
\sim
松平
4
内
記を
を
以
八
代蜜柑
蜜
柑
Arte
箱

去十四日"出 廿日 上野御佛殿『為御名代稲葉美濃守参拝也 土屋忠次郎『申渡之覚 廿四日 被造之

土屋忠次郎事春日式年之御造営五師役者計、裁判、而如何 由重。状遣候故無別条相済候右之趣奉行。も仕者之不念 尋候処心得違 " "迷惑之由申候依之五師役者方 心得違之 如前々被仰付迄御断之旨内膳正より申来候。付其趣忠次郎 被申付様悪候か又、五師役者私曲在之候、一之儀候哉被遂糺明 跡へ公儀之奉行被仰付候義絶無之處此度被仰付候段御門跡 被 忠次郎方ゟ跡『〈縁家より奉行不被 候右之段一乗院御門跡へも板倉内膳正申達候様にと申遣候処 様にも可申付忠次郎様子承届存寄於有之、差圖可仕旨申渡 仰付旨可得其意候由五師役者方書状遣候故一乗院殿より 仰付候共今度我等奉行

高五百石山田八左衛門儀常々知行所仕置悪敷故百姓ゟ度々 頭中迄訴訟致候頭板倉市正取扱候事済候處又候哉百姓。 "懸非儀有之候於評定所度々穿鑿之上不届"相極其上殿中

右於御座之間御暇 御直に被 仰付

板倉内膳正娘

役儀被 山田八左衛門『被 仰渡候覚

不和作法悪敷付知行被召上之御定之國々追放被 仰付之

駿府御城代

於評定所式日寄合稲葉美濃守出座 牧七左衛門へ山田八左衛門屋敷被下之

今朝祝言

御座之間、寺社奉行町奉行御勘定頭被 召候 御用

委細不知

細川越中守ゟ八代蜜柑十箱重献上之 松平筑後守工

之仕合其上常々仕置申付候様不足之旨被 聞召重畳不届"付 召上閉門被 仰付候事

十四日"出

廿一日

松平左近大夫

鳥目百匹 銀馬代 助之進惣領 市兵衛惣領 半三郎惣領 土屋左門 牧野左京 須田市丞 坪内主膳

時ふく三羽折 銀五十枚 武田道安 泰安

欠 奥 廿五日

巳下刻黒書院 出御

時服三 同四四 時服五 熊泥障三懸 太刀銀馬代 御 祝言相済 初見 参勤 戸田大學 松平志摩守 秋田安房守 酒井修理大夫 有馬中務大夫 松平出羽守

右御目見過 御勝手より

箱肴 参府 新田開発見分 伊奈五兵衛 妻木彦右衛門 細井佐治右衛門

差添被遺候帰参 妻木彦右衛門伊奈五兵衛 ← 金丸又三郎 平野次郎右衛門 設楽小左衛門

渡邊半四郎

川口兵右衛門派用 _{你五右衞門次男} 松平三郎四郎 天野門兵衛

午后刻西丸江 渡御御供

夜に入於 御座之間舞被 增上寺御佛殿御名代土屋但馬守出座也 仰付

幸若弥次郎

同

張良

宇右衛門

廿六日

男 大草主勝正町野壱岐守組御番土 西丸於山里御膳被召上候御馬 上覧申后刻 還御

松平因幡守 松平民部少 土井能登守

本多越前守高縄屋敷之內一万坪松平大隅守へ被下為代於澁谷

一万坪越前守へ被下

御入内相済"付御家門其外惣登 城献壽

天盃頂戴之由

済翌廿二日松平美作守品川式部大輔参 內 院参御進物差上 京都ゟ飛脚去廿一日鷹司殿姫君當関白殿妹御入内首尾克相

廿七日 去廿一日 御入内首尾好相済之由注進

御入内相済"付為御祝儀御両典御三人方國持大名衆"

府之諸大名登 城謁老中 上使大久保出羽守

八代蜜柑一箱

保科肥後守

巳下刻黒書院 出御御一門方 御對顔

登 城無之 病氣"付

白書院『話大名御目見有之

尾 張

御臺様之御妹之由也 伏見殿息女霊花院殿當月廿一日"逝去之由昨日申来是

欠

轉法輪右大臣内室死是,宗對馬守娘之由也

欠

屋敷拝領之面々

本庄ニ面 駿河台ニ而 矢部次郎左衛門 天野勘右衛門 水野主膳

小野寺屋敷江 高野宗清 半井卜養

鉄炮洲二面

山本道勺上ヶ屋敷江 川村印済 山本道勺

右之通被下候老中傳達之

依田玉川隣

三寶院殿去年峯入之時那須屋十右衛門儀宵坊と名を付致 後珎敷候事と風聞在之右之徒者之御好身當候地歴々之簾 次男"御譲惣領不覚悟者故兼"長谷殿勘當之由申候自今以 處附人在之則召捕籠舎被 仰付候長谷殿去年御死去家督 宿候今度長谷三位殿惣領頭所『商夜盗に入可申と企申候 供候躰奢者候故板倉内膳正に令篭舎被仰付候處十右衛門

九町四百八十九軒惣家合七百弐拾壱軒 刻迄焼失仕候侍屋敷十九軒合力米被 仰付之者 百六十四軒町 豊前中津今月十四日酉后刻町屋より出火折節風雨烈敷亥

江戸舛不同在之"付京舛分計"今度改之横屋藤左衛門"新舛 在之候相求向後可被用候以上

銀馬代 切付三口 寒中御何 御札并束巻 西十一月廿九日 大坂帰 右御書付十二月三日高木伊勢守か 知足院 久志本式部 同 市郎右衛門 本阿弥光察 石丸石見守 齋藤源蔵

御鷹之 雁被下 井上相模守 青山大膳亮 小笠原山城守 太田備中守 内藤飛騨守

永井日向守 酒井日向守 堀田備中守 三浦嶋守 増山兵部少輔

那須遠江守 加々爪甲斐守

駿府ゟ次飛去廿五日之夜駿府町屋ゟ出火少々類火有之由

夜 "入於 御座間幸若弥治郎同次郎右衛門"舞 ゆり若 被 仰付候

廿九日 無事

晦日

大坂 6 飛脚彼地御目付徳永平八郎乱氣 "付當地へ差上旨申来

御暇時ふく弐

土井能登守永井伊賀守於 御前雁拝領之

柳営日次記

寛文九年

十二月

午上刻黒書院 出御如例御一門方

御對顔

水戸相公

白書院 出御如例月御礼

御勝手より

松平新九郎

障子明之御次之間伺公之面々並居一同御目見終而 是"徳永平八郎於大坂令乱氣付為代被遣之終"間之御襖

諏訪若狭守

右老躰"付願之通隠居被 仰付子主水"跡役被申付度旨甲府殿

御對顔之節御願之通 御直に被 仰出之

戸田作右衛門

右摂州多田院御造營出来付『御勘定之儀穿鑿可仕旨老中

傳之

行遂穿鑿之間戸田作右衛門相加可承之旨 馬場十郎右衛門岩佐善兵衛多田院御造営中之儀御作事奉

勢州内宮火事出来家数弐百四五十軒焼失 御宮無別條由

古郡文左衛門

紀伊亜相へ以松平因幡守白鳥之毛皮十枚#アメントス一箱被遣之

阿部伊豫守へ御鷹之雁被下

為御礼左京大夫登 城

一 日 無事

馬場十郎右衛門

岩佐善兵衛

門相加御勘定等吟味可仕旨老中傳之 之内,及大破候付御作事奉行遂穿鑿之旨御目付戸田作右衛 右,先年摂州多田院御造營奉行被仰付處出来以後五六年

宝樹院殿御霊屋『御名代美濃守

三目

時服弐

門奈助左衛門

秋山六左衛門

右府中御馬買より帰参"付被下候也

於評定所式日寄合 但馬守出座

水戸宰相殿鷹場ゟ雁弐被献之

被下美作守,廿九日式部大輔,晦日出京之由注進之 京都ゟ飛脚松平美作守品川式部大輔先月廿八日参 内院参御暇

五日

紀黄門国元ゟ使者飯塚兵部右衛門鷹之鶴被献之 水宰相鷹場小金へ為 上使水野主膳被遣之御鷹鷹取 弐被遣之

御暇金一枚時ふく三

御暇時ふく三羽折 小笠原久兵衛紀黄門使者

水宰相鷹場へ 上使為御礼少将御登

御暇 銀十枚 幸若伊右衛門

御暇 時ふく弐 次兵衛

七月

之雁鴨被献之 水宰相鷹場へ一昨日 上使為御礼松平志摩守差上之拝領之鷹捉

酒井修理大夫渾天儀献之

八日

銀十枚 "銀十枚時ふく弐 御暇銀十枚 " 時服弐 本因坊 知 門 算 哲 哲 知 入

" 時ふく弐ッツ #銀十枚 了栄 宗与 宗 道 看 策

八兵衛

源右衛門

大日出座美濃守 高家 主勝子 宮原左京	では、 には、 では、 には、 では、 には、 に	在元服被 仰付筑前守"改官位四品綱之御一字被下之御盃頂 有元服被 仰付筑前守"改官位四品綱之御一字被下之御盃頂 本中有塞 銀三百枚小槍二十	を管御所が最暮御祝儀具服被進之御使小林与左衛門 十日 今日 会日 然着 松平美作守 が変にする。 がである。 がでる。 がである。 がである。 がである。 がである。 がである。 がである。 がである。 がである。 がである。 がでる。 がである。 がでる。 がである。 がである。 がである。 がである。 がである。 がでる。 はでる。 がでる。 がでる。 がでる。 がでる。 がでる。 がでる。 をでる。 を	是 遠江守伊達 兵部少輔	大日
同 称兵衛子 本源左律甲 與中人左衛門子 照場仁左衛門 與火之香作兵衛子 江口作右衛門 與火之香作兵衛子 江口作右衛門 三郎右衛門子 明場仁左衛門 其切奉行加左衛門子 四川清右衛門 以下本行加左衛門子 四川清右衛門	# 1 日本第 1 年本 1	大会市正組九郎右衛門表示 (本) 大人 保新 五右衛門 大会市正組上郎右衛門表示 (本) 本	職川長門守組大左衛門子 東县市正組賴母子 中县目向守組甚四郎奏子 中县目向守組甚四郎奏子 本多美作守組久六郎子 本多美作守組久六郎子 大久保新右衛門 大久保新右衛門	本多类作守組無在衛門子 本多类作守組無在衛門子 大久保山城守組人右衛門子 大久保山城守組人右衛門妻子 大塚主勝正組制為 二子 杖 平六 郎 北条右近大夫組善右衛門妻子 大尊主勝正組制為 二子 杖 平六 郎 中山丹後守組八大夫子	新上三百五十石 寄合庄三郎子 新庄千助 新子二百五十石 寄合庄三郎子 (石丸伊右衛門内千石 同次男 (同左兵衛内千五百石 同次男 (別田鍋之助 同 次男 (別田鍋之助) (同 佐兵衛 (別田鍋) (別田園) (
原輸亜科主導連主美子無之仍久我黃門息令養子也廢輸 語解亜科主導連主美子無之仍久我黃門息令養子也廢輸 語明之由被及 聞召之間右家領千石之內五百石被遣之旨被 仰聞之由被及 聞召之間右家領千石之內五百石被遣之旨被 仰出候 板倉內膳正へ奉書	接番正用 芸真近 芸妻と 無 と うく 皮 貴 月 ま う 後 子 也 養番 正 用 芸 真 近 芸 妻 と 悪 と うく 皮 貴 月 ま う 後 子 也 養番 正 用 生 質番 正 相 生 頁 近 芸 妻 と 手 西 ま で か 茉 献 上 之 "付 一 両 上 へ 御 進 献 之 拝 借 五 千 両 と 都 合 一 萬 両 也	+BIII 巷	右之通跡式被仰付旨老中被傳之	「同 整右衛門養子 (下内) 定在衛門 (東東) 総番請兵衛子 (下内) 定左衛門 (世貿 差兵衛子 (下内) 定左衛門 (世貿 差兵衛子 (野村瀬) 兵衛 (野村瀬) 兵衛 (野村瀬) 兵衛 (野村瀬) 兵衛 (野村瀬) 兵衛 (東京	富士見番庄兵衛子 富田夘之助同 喜主見番庄兵衛子 富田夘之助同 春兵衛子 小知金左衛門妻子 清泰院縣付聯左衛門妻子 清泰院縣付聯左衛門妻子 伊阿弥筑後

#####################################	刻紅葉山 御社参加長特御先日		右先日陸奥守元服"付 (上	同大	羽二重十正 羽二重十正 羽二重十正 初 和 内相済以 上使色々御遣物御礼 廣 横	出御如例月
此外御近習之面々松平因幡守、非伊掃部頭	E ii	政所使者権庭の政所使者権を持ち、	· 多美作守 二 論坊 如州 本州 本州 本州 本田九兵衛 の代官 の代官 の代官 の代官 の代官 の代官 の代官 の代官	田 玄 蕃 郎	山門惣代大政所使者兼	同 政所使者 關戶股供者 標底中務大輔 關戶股供者	水宰相殿 月諸大名 御目見門方御對顏但尾張殿
御 御 舎 刀	但 伊 老	表 で名 プリー被 添 阿 使 間 が 可 と で 名 プリー 被 添 阿 使 間 が 可 し 宗 菴 去 が 頃 死 去 " 付 画 也 宗 菴 去 が 頃 死 去 " 付 画 也	右*向後大奧這被為附候間女中療治可仕旨老中被傳之是旨来年参勤御免被成旨老中ゟ奉書被遣之旨来年参勤御免被成旨老中ゟ奉書被遣之右*参勤之時分之處夷人之儀"付人数差出太儀に 思召右	両拝借之	十八日 銀五枚	即刻 選御御先 御三人方参上即刻 選御御先 御三人方参上	日門拝迎御先へ掃部頭豊後守美濃守但馬守御先へ掃部頭豊後守美濃守但馬守
松平紀伊守大久保出羽守	神 神 神 神 神 神 神 神 神 神 神 神 神 神 神 神 神 神 神	御先初一七里老中被作了《長	(A) (A) (A) (A) (A) (A) (A) (A)	-三日五千両拝借都合壱萬松平美作守	女院御使	赤井坊使僧 二諦坊 置御後御両典参拝也	神尾播磨守
	金三 枚 ラック また	*褒美被下面	全馬代	於評定所式日寄合土屋但馬守出座也廿二日	右衛定之通御切米被下旨老中被傳之右御定之通御切米被下旨老中被傳之	三年勤無足之面々革新規御切米被下廿一日	日門拝迎 掃部頭雅楽頭豊後守大和守但馬守御先 尾黄門水宰相陪拝
大湖半左衛門 一次本 新兵衛 御職奉行六人 一次本 新兵衛 一次本 新兵衛 一次本 新兵衛 一次本 新兵衛 一次本 新兵衛	神石集 即石集 人保吉右衛門 神石集 人保吉右衛門	御 礼	停延御礼 松平美作守	任但馬守出座也 狩野七郎右衛門		御小姓組八十人 御書院番六十二人 規御切米被下	和守但馬守御先

百五十俵 新規		五十俵 新規		百五十俵 新規	弐百俵被下 新規	弐百俵御加増	;	御加増 #新規御扶持方被下面々	右之通被下旨老中傳之								時服弐ッッ																金弐枚ッッ	# 応く弐羽折	
鈴木宇右衛門	客左衛門子 アリニー良	天野三十郎 御納戸五郎大夫子	与語古菴	原田甚五兵衛	志水治左衛門	権之助子 山田太郎右衛門 本多伯耆守綱与頭	太多自善于且子頁 太多自善于且子頁	面々		一 柘植傳兵衛	本多九右衛門	勝屋六郎兵衛	服部六左衛門	三輪平左衛門	三田二郎右衛門	国領半兵衛	/ 都筑長左衛門	人 浅井八郎左 衛門	花井次左衛門	松平二郎左衛門	須田二郎太郎	溝口佐右衛門	根岸長兵衛	神谷長五郎	石野小左衛門	武蔵八郎右衛門	山木安兵衛	野々山弥兵衛	伊奈彦右衛門	坪内木工助	鵜殿甚左衛門	横山甚右衛門	/ 三嶋清左衛門	馬場三郎左衛門徳山五兵衛	本庄奉行
			ケ 金壱枚ッッ 修羅			化多計 化	j	右御拝礼終而 還御御三	御供能登守筑後守民部少輔	增上寺方丈拝迎	御先へ掃部頭雅楽頭豊気	尾黄門水宰相陪拝	御沓	御刀						辰下刻紅葉山御佛参御長袴御先	廿四日		中嶋与五郎	芦野左近 太R	保科越前守 堀	秋元摂津守 松玉	^{箱肴} 土井大炊頭 安芸	п	五人扶持	米弐十石 御加増	十人扶持 在江戸中被下	三十俵弐人扶持 新規	百五十俵に被成下	百五十俵被成下	百五十俵被成下百五十俵被成下
	保喜伊左衛門	間利兵衛	を関連権	竹		§ 府論所 · 鳴 岳· 左· 箭 明		還御御三人方御先≒参上御両典 ゙ 還御以	少輔		御先へ掃部頭雅楽頭豊後守美濃守大和守但馬守		松平紀伊守	松平内記	御近習之面々	永井伊賀守	土井能登守	老 中	井伊掃部頭	.長袴御先				太田原出雲 福原内記 今村傳三郎	堀 飛騨守 榊原越中守 福原淡路	松平山城守 土屋民部少輔 西郷若狭守	安藤對馬守 阿部播磨守 松平備前守	一噌八郎右衛門	葛野一郎兵衛	東儀淡路	#P	# 表	高田庄右衛門組与頭	同 松井与三兵衛 松井与三兵衛	同 松高藤右衛門神足市左衛門組与頭神足市左衛門組与頭
			布衣被 仰付	右"當年在江戸"付被下之	者 1 - 1	銀 金計 大村	250	一 壱季居之奉公人来年も1					一 縁組被 仰候面々	同	同	同	諸大夫	同		a	同	[1]		[7]	同	[1]	同	諸大夫	[7]	[7]	侍従	官位被 仰付之	廿五日	日門御登山"付医師竹田法印差添可被遣旨	增上寺傳通院登 城增上
与日專三箭月	御川 無訪兵部 頻蔭	御小姓組之頭 鳥居権之助	前田帯刀 孝矩	Z	Ī	司 二郎右衛明 幸老彌二郎		壱季居之奉公人来年も三月五日迄可召仕候旨被 仰出候	本多彌八郎江	松浦猪右衛門娘	久貝彌右衛門 ¹¹	水野主膳娘	石 見 守		またでする これ 野宮内 水野宮内 和男子	間防守密順 和象守 柴田七九郎 康利	■	水野主膳 忠久		#	自使并复用 单日息 真田仙千代	#銀手物質 整角手 地田兵部	前後守忽頃 音奏守 池田信濃	公平所以那次男 松平左門	世界 石川玄蕃 備中守	京極百介	真田右衛門	松平左門	松平土佐守	藤堂和泉守	佐竹右京大夫			法印差添可被遣旨	城增上寺、御茶御菓子傳通院、御菓子進上之

御座之間 御 歳 暮

被四品仰付 松平左京大夫

時ふく弐 ツッ

御小納戸

才 珎

阿弥 冏 弥

大黒長左衛門

座 座 職

人

七郎兵衛

遠山半右衛門

稲垣市正 土岐伊豫守 米津周防守

見並落縁ニ亜

右

御目見畢而問之御襖障子明之御次之間何公之面々

御目

足

院

弐十両 金三十両

青山因幡守 楽

美 豊 濃 後 守 守

小袖三

同断

但 土井能登守 馬 守

大

和

守

同断 同断

板倉筑後守

松平因幡守

内藤式部少輔

石川美作守

松平紀伊守

能勢摂津守

太田伯耆守

岡部隠岐守 内藤上野介 酒井壱岐守 三枝對馬守

辰下刻黒書院

出御御一門方御對顔 城無之

神尾播磨守

御小納戸衆

小袖弐

大森信濃守

尾張殿家司寺尾土佐水戸殿家司中山大膳諸大夫被 仰付

青山因幡守四品被 仰付

御座間 紀伊亜相 御對顏

同 松平左京大夫 御目見

大久保出羽守

廿七日

松平内記

本多土佐守

御小姓衆

之由也 是土屋兵部少組也

記録調之坊主四人"金子被下之

安藤九郎右衛門三男内藤内匠事去。廿三日於番丁召連候鑓

新庄与惣右衛門跡 七百俵高"成小十人頭 三百俵

中奥御番

秋山大學

持跡へ通口論仕鑓を被取依之内匠無面目由『声寺』参自害

白書院 出御如例月御礼諸大名 御目見

同所神主教院

日吉大膳

同きック 同断 小袖三ッッ

同断

同断 同断

同断

御側衆三人

松平民部少輔

永井伊賀守

時 金 五 枚 弐

時ふく弐ッッ

三宅市右衛門 坂本小左衛門 鵜殿十郎左衛門 成嶋惣右衛門 大久保兵九郎 松平二郎兵衛

短冊

昌純 仍春 玄祥 昌程

東本

永井彦兵衛

入精 付被下之 江原九郎右衛門

右、御奉公

時 ふく 弐 ッッ 万年佐左衛門 大久保三十郎 本多金右衛門 松平傳右衛門 大久保一郎右衛門

牧 七左衛門 飯塚半右衛門 山崎伊兵衛 大河原源五左衛門 甲斐庄三郎右衛門

参 上

朱 幸阿弥

御代官 左馬頭殿城代

諸星惣左衛門 戸田周防守

同 助左衛門 五十嵐太兵衛 義村源左衛門

御連歌之間後二而

呉服所之者

月召連候人数前々之通小勢可召連也 諸大名留守居高木伊勢守黒川丹波守右両人被申渡候来正

小十人頭秋山大学組中御引渡 布衣被 仰付

学院僧

廿九日

典記有之如例年為歳暮御礼御両典御三人方御一門方登 城次に

毛利甲斐守

右何も於白書院謁老中同断"付

家

衆

奏者番

寺社奉行

城也

右何も登

中 中 山 大 膳 [±] 生 生 年 事

右。昨日諸大夫被 仰付候由也

風ハケシキ時分急用、各別宿罷在火之元可被申付候假振廻 之約束候共断申遣相延可申候事 右例年之通被下置候 金三両ッッ 金拾両ツッ 金十三両ッッ 金弐両ッツ 御小納戸六尺六人 御納戸坊主廿七人 表日記坊主 御納戸坊主六人

風吹之候時分"面々之屋敷火之元堅可申付候事辻番"増人 候者,御褒美可被下候事 なと有之候取之候『町奉行衆へ遣可申候但あやしき物とらへ 指加節に見廻りあやしき者見出し候はば捕可申候火付道具

常々隣近所申合若近所之火事之節出合早速消可申者也 十二月廿七日

為歳暮之御祝義御一門方其外御譜代衆少々登

御祝之御膳如嘉例於與方献上之本多美作守勤之

寛文九年十二月廿一日

一三年勤無足之御小姓組 八十人 御書院番六十弐人 大御番 四十六人 小十

人組 三人 右之面々御切米被下之

御書院番は三百俵ッッ 大御番は弐百俵^{ッッ} 但小長谷次大夫笠原又十郎 両人 三百俵 被下之

小十人組は百俵ッッ

松田兵大夫 小沢二郎大夫

柘植善右衛門 横地八十郎 川井兵大夫 藤堂平兵衛 藤掛内匠

大河内七郎左衛門 松浦八兵衛 九鬼権之助 前田孫左衛門 仙石治兵衛

松下善兵衛 猪飼平助 長谷川平八郎 雨宮権左衛門

向井主税

松平監物組 岡部新五兵衛 坪内甚三郎 富永新五郎 柴山小左衛門 戸田喜六郎

天方庄兵衛 松平市之丞 戸川彦四郎 木村源太郎 大沢八郎左衛門 土岐彦九郎 森川三郎右衛門 興津久七郎 妻木四郎右衛門

水野主膳組

玉虫又三郎 丹羽傳助 天野左内 山本平兵衛 下曽根新十郎

川村左近 千本八右衛門 六郷八郎兵衛 美濃部八兵衛

堀田對馬守組

間宮甚十郎 宫崎助大夫 市岡彦右衛門 近藤源左衛門 田付三五郎

山本甚兵衛 大久保源内 長谷川定右衛門 本多傳藏 矢嶋三左衛門

石川美作守組

大久保出羽守組 松下彦兵衛 内藤源助 佐橋七之助 廣戸五兵衛

山中五郎左衛門 安藤傳十郎 渡辺半七郎 安倍源左衛門

本多土佐守組

永井善右衛門 谷 与 五郎 前場孫十郎 坪井三右衛門 花井源次郎

大草主膳正組 肥田十郎右衛門 嶋 兵四郎 堀田善右衛門 松田五左衛門 伏見権七郎 中嶋源五左衛門 筧 平十郎

柴田七九郎組 坪内源五郎 松平彦十郎 小長谷二郎兵衛 小野源右衛門 水野友之助 小出弥三郎 嶋田十兵衛 天野甚九郎 田中大隅守組 田邊惣十郎 小林長兵衛 小長谷次大夫 鈴木新五右衛門

植村志摩守組

高木甚治郎 齋藤庄左衛門 間宮長兵衛 高山半左衛門 加々爪三五郎 土岐左衛門 高力刑部 安藤五郎兵衛 安西甚太郎 毛利十郎左衛門

小笠原三左衛門 大河内孫太郎 小笠原孫左衛門 安部助九郎

平岩助右衛門

松平縫殿頭組

武田越前守組 長 近藤左兵衛 彦四郎 倉橋七郎兵衛 溝口傳四郎 中根新三郎 諏訪五郎左衛門 折井瀬兵衛

三枝隠岐守組 市岡久三郎 鳥居久五郎 近藤半助 太田甚四郎 石巻七郎左衛門 落合小平次

三枝摂津守組 倉橋三郎五郎 高木宇右衛門 美濃部左兵衛 安藤理兵衛 花房安右衛門 千村清左衛門 品川平四郎 久世権三郎 天野三左衛門 松平権右衛門 久貝伊兵衛 諏訪宇右衛門 岡田左太郎

町野壱岐守組 設楽甚太郎 織田半弥 酒依清左衛門 蜷川八兵衛 宅間八郎兵衛 石川百助

土屋兵部少輔組 山田三郎左衛門 成瀬左兵衛 内藤内匠 板倉伊右衛門 久世弥右衛門

大久保山城守組 立花左兵衛 本多五郎大夫 高木三左衛門 川口式部 古田彦左衛門 宇都野金左衛門

永井對馬守組 森川市右衛門 石谷九八郎 大岡五左衛門 鈴木孫四郎 以上六十弐人御書院番

中根日向守組 小嶋源蔵 中島七郎右衛門 曽雌兵助 松平弥五左衛門 逸見七兵衛 福井伊右衛門

松平豊前守組

本多万四郎 米倉新右衛門

内藤若狭守 加藤助十郎

大沢十右衛門 以上八十人御小姓組

和日系宣称月 空京之上的 丘泰丘形大夫 小麦辛三声号 大人朵系一郎	本多伯耆守組	小野二郎兵衛 鎮目市大夫 間宮傳左衛門 守山市兵衛
宣功修之虚字日 发巨人马之即修兵释送目动坛笺皮 思马岛	一 亥年ゟ去申年迄十ヶ年之間御番改之儀當春被 仰出之依之	寛文九年閏十月十八日

新見一郎左衛門 和田孫左衛門 大橋新五左衛門 太田七郎右衛門 美濃部喜平次 木村孫三郎 近勝五郎大夫 大久保務一郎

岡部丹波守組

依田助之進 酒井九郎兵衛

戸田相模守組

戸田備後守組 太田与左衛門 齋藤友之助 福井源蔵 久留十左衛門

花井新五兵衛 岩佐源五左衛門 貴志庄之助 外山藤左衛門 小林五右衛門 高尾与一郎 荒川兵助 高木甚左衛門 折井一郎兵衛 天野次郎左衛門

稲富一郎左衛門 以上四十六人大御番

川村善次郎組 宅間伊織組 元新庄与五左衛門組 蜂巢十郎左衛門 田邊清八郎 鈴木才兵衛 以上三人小十人組

> 御褒美黄金被下旨雅楽頭傳之 右勤番之輩今日 熈中へ石之御番無懈怠相勤太儀被 席二ヶ所 新御番御右筆御腰物奉行御納戸、新番所南之方

午刻黒書院 出御右之諸番頭一同出座 御目見何も組中御 御小姓組御書院番大御番小十人組、白書院東之方

褒美被下候御礼也其後山吹間 出御

右之通並居一同拝謁御番勤仕之輩黄金被下置難有旨雅楽 菊ノ間同縁通芙蓉間縁通迄 伊納戸 小十人組 雁ノ間芙蓉間竹間 "御小姓組御書院番御右筆

勤之品

頭言上之骨折之由 上意有之

十ヶ年之間 煩断三 ""十二迄有之分、上勤 十ヶ年之間 煩歟断一二有之分,上勤上 十ヶ年之間 煩断一も無之`皆勤

皆勤六十九人 黄金五枚宛 黄金拝領之員数

上勤上百人 同 三枚宛

上勤弐百拾六人 同 弐枚ッッ

右之外小十人組皆勤弐人金三十両 ッッ上勤上四人金弐十両 ッッ 上勤十人金十両ッッ

都合人数四百壱人

御小姓組九人御書院番九人新御番四人大御番四十弐人

大沢権六郎 大沢権六郎 進辺久助 建辺久助 間宮三郎九郎 酒井伊豫守組 戸田源兵衛 松平監物組 大久保出羽守組 中山伊右衛門 皆勤七十一人 間宮孫兵衛 内藤左七 同 組 松平內記組 同 大久保山城守組 松 平 新 右 衛 門 駒井右京組 武田越前守組 青山丹後守組岡部源太左衛門 堀田對馬守組 小林彦兵衛 須田喜兵衛 土屋市之丞 高山平右衛門 津田三左衛門 井出七郎左衛門駒井右京組 荒尾平八郎三枝隐岐守組 植村志摩守組宮崎七郎右衛門 戸田相模守組 妻木傳兵衛 竹尾傅左衛門 佐々木新左衛門 斎藤久右衛門 中山左兵衛 同 遠山半左衛門組 平野九左衛門 柳原弥左衛門 佐橋三左衛門 朝比奈孫兵衛 神尾五郎大夫 佐々喜三郎 太田助之進

浅井傳八郎 馬場十郎右衛門

久留半右衛門

須田太郎左衛門 大久保源五左衛門

筧 新左衛門

渥美平左衛門

松平豊前守組

本多伯耆守組

大久保右京亮組 次郎右衛門

植村土佐守組 標利土 彦太郎 御右筆鈴木九左衛門 內藤若狭守組飯河次左衛門 水野周防守組 鈴木一郎兵衛 森 新兵衛 天野三郎右衛門 飯田惣左衛門 御小姓組十九人御書院番十二人新御番十六人 市川甚兵衛岩佐善兵衛 阿倍忠右衛門組 御右筆 二郎右衛門 窪田八兵衛 杉浦半左衛門 小尾源右衛門 司 司 田中大隅守組 柳沢四兵衛 千村八左衛門 石原十左衛門 以上皆勤七十一人 小嶋文左衛門 太田庄兵衛 御腰物奉行川副金左衛門 冨永彦兵衛 佐脇傳右衛門 大岡宇右衛門 前田十左衛門

三輪新五兵衛 永田孫次郎

小俣七郎左衛門 竹本武兵衛

森川清十郎 中根又兵衛

勤上百四人 大御番廿六人御右筆十人御腰物奉行六人

長井助十郎	戸田六郎右衛門	河内源五兵衛網腰物奉行	枚浦源右衛門	司建部与兵衛	飯高与兵衛	同 岡部八郎五郎	同山角二郎右衛門	同	向坂六郎五郎中根日向守組	近藤源三郎	大久保右京亮組成潮源王 乒 律		問:	戸田相模守組高井助十郎	同	跡部久右衛門		宮崎弥五兵衛野井右京維		四郎組	兼松又四郎	同村丁五五省		榊 原左平太		小倉弥	大人呆出羽守祖 井 廿 太 左 衛門	i	山角清兵衛	J	西尾七兵衛	青山源右衛門	酒井采女組 御納
上田宇右衛門	尼田源左衛門	大井三郎右衛門	鈴木甚五左衛門	人保五兵衛	坪内藤七郎	同 曽雌甚左衛門	同 藤川庄二郎	同	秋山源太左衛門	久保田与左衛門	同櫻井甚左衛門	同 3 1	佐橋忠左衛門	同木村善左衛門	遠山半左衞門組	廣戸源右衛門	能勢市十郎組	鈴木八郎右衛門 大岡忠匹貞組	万年傳兵衛	遠山半左衞門組	最上大膳	同村平野と良	乏力に岐守組	戸田三十郎	同	服部十郎左衛門	本多と左手担	同 C C	神尾弥右衛門	松平監物組	三宅大學	中坊長兵衛	御納戸十一人小十人組品
小林又左衛門	加藤甚右衛門	加茂宮次兵衛	井出五左衛門	大橋左兵衛	大橋長左衛門	御右筆 小田切太郎左衛門	同 山岡傳五郎		高木又兵衛	大久保源治郎	同山川三左衛門	松平豊前守組	高林与三左衛門	酒井伊豫守組	駒井右京組	小林市右衛門	[原田榛四郎		青山藤右衛門組	小笠原八右衛門	同ジロクロ良	組組	脇坂甚兵衛	植村志摩守組	石川庄二郎	大草主善EII	:	久世兵右衛門	5	安部弥平次	椿井吉兵衛	回同人
池田勘兵衛	土井喜兵衛	石野十郎左衛門	久保金左衛門	同 神尾小左衛門	飯高七兵衛	同 服部又右衛門	水野周防守組 三枝八郎左衛門	岡部丹波守組	赤井七郎兵衛戸田備後守組	山角文右衛門	中根日向守組 水房产則左衛門	同	永田権右衛門	同高木六兵衛	青山藤右衛門組	久保新右衛門	- 1	井出三左衛門	庄 与左衛門	能勢市十郎組	向井八郎兵衛	大久保山城守組	司式拉拉力	秋山十兵衛	294	松下与兵衛	司 軽唇源左律門	石川美作守組	興津五郎兵衛	Ţ	村越左兵衛	若林長十郎	同

牛奥甚十郎	遠山三左衛門		竹尾喜左衛門	
以上上勤上百四人	小嶋三左衛門	川村善次郎組	戸張源五右衛門	同
	青柳新五右衛門	宅間伊織組	名取三郎左衛門	同

同 同 同

同山田善右衛門 朝比奈新太郎

御小姓組八十人御書院番五十九右人新御番十四人

榊原権七郎	同伊奈五左衛門	新井平兵衛	朝岡八大夫	三支過岐守祖富永源太左衛門	同阿倍八之丞	同川合源三郎	司 中野傳右衛門		青山丹後守組松平甚兵衛	同小笠原伊兵衛	松平源助	司 小幡五左衛門	可 中山市之丞	大久保出羽守組 州郎右衛門	雨 森 才兵衛	同 天野六郎左衛門	同細井金五郎	同等者更金右衛門	堀田對馬守組	高林与五右衛門	神保又左衛門	司品川権大夫	酒井小平次	同曽根五郎兵衛	司 牛込傳左衛門	同依田源六郎	松平內記組市橋三四郎	市岡左大夫	司 小倉十兵衛	- 勤弐百廿六人
小沢彦大夫	同前場久三郎	三浦甚五兵衛		司 大久保権左衛門	同 大関勘右衛門	同 五味小才次	司 曲淵与左衛門	同天野彦兵衛	同 榊原傳左衛門	同加藤源左衛門	9	司 大沢左兵衛	水野十左衛門	同山岡八郎左衛門	大久保出羽守組跡部宮内	石川美作守組 服部久右衛門	高木忠右衛門	柴田七九郎組		初鹿野一郎兵衛	大岡甚十郎	三枝長兵衛	K. 野上善星 飯田三左衛門	同宮城主殿	司 松前八左衛門	同 西山八兵衛	同甲斐庄四郎右衛門	山崎十兵衛	司 建部宇右衛門	御納戸弐人小十人組十人大御番五十八人御右筆弐人
井戸新右衛門	同 林 権左衛門	人松市左衛門	多門左次兵衛	内藤三郎兵衛	同 瀧川久三郎	同 長崎弥左衛門	武田越前守祖岡野平兵衛	同 大久保右衛門八	植村志摩守組細井仁兵衛	同遠山半兵衛	間宮文左衛門	司 伊藤傳五郎	本多土左 守祖 中根 喜蔵	同上田太郎左衛門	山崎勘兵衛	同 井戸甚之丞	同 石巻八郎左衛門	同 須田三朗兵衛	1 4	立花宇右衛門	稲葉勘右衛門	伊東甚之丞	酒井作右衛門	同 能勢半十郎	司 岡部三右衛門	松平監物 徳山権十郎	富永孫大夫	同 藤堂主馬	司 浅井権十郎	八人御腰物奉行一人
有賀長三郎	同 渥美九郎兵衛 温美九郎兵衛	山下五郎右衛門	本多主膳	押田五郎大夫	同溝口孫左衛門	同井戸甚助	司内藤権九郎	松平縫殿頭組 三左衛門	同 神 左兵衛	倉橋	大草主語EEE EEE 在 衛門	司川井三郎兵衛	同 戸田三郎左衛門	同 久松弥一郎	同 鈴木兵九郎	同 川口茂右衛門	同 春田宇右衛門	田 平 大 夫	同に名が、大日本で、大日本で、大日本で、大日本で、大日本で、大日本で、大日本で、大日本で	三宅左兵衛	徳永三左衛門	司設楽三左衛門	神尾三郎左衛門	同 北條左近	司 柴田権兵衛	同 新庄甚助	同西尾甚助	同 折井市左衛門	司本多木工助	ī

大久保甚兵衛組	神谷助左衛門	阿倍忠右衛門組	i fi	大河内一郎右衛門	1	小栗五大夫	入戸野又兵衛		水野九右衛門	司 伴 新五右衛門		市川瀬兵衛	司 疋田一郎左衛門	1	天野孫兵衛	青沼藤右衛門	同河内太左衛門	有京亮組	米倉半左衛門	同福井勘兵衛	i	都筑市左衛門		- 酒井伊豫守組	坂部八郎右衛門	糟屋弥	大久保彦兵衛組	# 	山角藤	青山藤右衛門組 一	ī. B	松平六左衛門	同天野孫助		水野十兵衛	 林浦武兵衛	同富田大學	町野壱岐守組	渡辺与右衛門	1
川村善治郎組	深尾四郎兵衛	新庄与五右衛門組	日兵衛組	小嶋次郎	同	小林三郎左衛門	大久保九兵衛		浅羽孫三郎	岡部丹坡守祖 伏見勘十郎		岩間八郎左衛門	本多甚兵衛	i	駒井孫四郎		中根日向守組松下忠兵衛	同	伊東九郎左衛門	同渥美太郎右衛門	同	幸田七左衛門	西山喜六郎	i	勝屋勘左衛門	長田平三郎	戸田相模守組	大久保彦兵衛組	小笠原傳三郎	能勢市十郎組	木 言 て 形兵衛組	多門藤兵衛	同長谷川権左衛門	大久保山城守組	a 島山主税	土方宇右衛門	土屋兵部少輔組 松平甚至左衛門	2	戸川内蔵助	I
宅間伊織組	山田半右衛門	鳥居三郎右衛門組	ři –	朝比奈藤左衛門		田澤五兵衛	永田七郎左衛門	水野周防守組	山角権兵衛	司三雲新十郎	同	山上五郎左衛門	内蒙古史于且本多三左衛門	1	岭木甚左衛門	小林七郎兵衛	同極原五郎左衛門	同	土屋四郎兵衛	同土屋次郎左衛門	同	高林甚右衛門	小笠原久左衛門		山中市兵衛	本多八左衛門	同數是沙丑其衛	全量原 五 关 前	河野九郎左衛門	大久保彦兵衛組		青木又右衛門	同能勢八左衛門	, : :	田村助大夫	徳永頼母	同遂山思四郎	3	佐久間源四郎町野壱岐守組	The state of the s
	浅原又左衛門	同多日人良去省門	E L	手賀三五郎	j	小林勝之助	大井理兵衛	田中大隅守組	遠山源兵衛	司 伊勢平左衛門		鈴木三右衛門	三輪彦左衛門	同 1	春日左五右衛門植村土佐守組	加藤	同 小林平財	k E	佐橋惣左衛門	同金田惣八郎		久留善四郎	朝此奈		松風理左衛門	小尾十郎左衛門	同间音科及具	Z 組		遠山半左衛門組不上沙才復門	i 皆		駒井右京組 妻木 傳 蔵		土岐源右衛門	土岐作右衛門	同家山主才	1	津金理左衛門	I

以上 上勤弐百弐拾六人

小林甚右衛門 本多十左衛門 佐藤傳助

院番二條大坂在番之大御番拝領金、月番之番頭請取之 右拝領之黄金。何も番頭御納戸より請取之但駿府在番之御書